

令和 2 年度

# 事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I 法人総括	3
II 高齢者福祉事業	
[1] やすらぎの家 関連事業 総括	6
1 特別養護老人ホームやすらぎの家	7
2 短期入所生活介護やすらぎの家	16
3 グループホームほのぼのの家	18
[2] うららか春陽荘 関連事業 総括	19
1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	21
2 居宅介護支援事業所はるの	23
3 デイサービスセンターはるかぜ	23
4 デイサービスセンターそよかぜ	25
5 短期入所生活介護うららか春陽荘 (ショートステイ)	26
6 高齢者住宅等安心確保事業 (横浜ニュータウン)	27
7 うららかキッズガーデン (事業所内小規模保育施設)	27
8 春陽荘各種委員会活動報告	28
[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
1 デイサービスセンターくつろぎの家	31
2 デイサービスセンターわかくさの家	34
3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	36
4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	39
5 高知市在宅介護支援センター あさくら	39
6 高知市朝倉地域包括支援センター (高知市西部地域高齢者支援センターあさくら出張所)	41
7 生活援助員派遣事業 (若草)	43
III 児童福祉事業	
[1] うららか保育園 関連事業 総括	44
1 うららか保育園	45
2 特別保育事業	47
3 放課後児童クラブ	50
4 職員研修参加状況	51
IV 公益事業 総括	53
1 平成福祉専門学校	53

## I 法人総括

### (1) 令和2年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況 理事会 定数8名

開催年月日	出席 定数	決議事項
令和2年6月3日(水)	7名	第1号議案 平成31年度(令和元年)事業報告及び決算報告について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告について</li> <li>・決算報告について</li> <li>・監事 監査報告について</li> </ul> 第2号議案 定款の一部改正について第 3号議案 理事候補者の選任について第 4号議案 評議員会開催について 第5号議案 社会福祉充実残額について
令和2年12月18日(金)	8名	第1号議案 令和2年度第1回補正予算について 第2号議案 諸規程の制定及び一部改正について 役員報酬等規程一部変更 ハラスメント防止規程の変更 第3号議案 運営規程の追加 高知市朝倉地域包括支援センター運 営規程 その他 理事長及び業務執行理事の職務執行 状況報告について
令和3年3月24日(水)	8名	第1号議案 令和2年度第2回補正予算について 第2号議案 令和3年度事業計画について 第3号議案 令和3年度当初予算について 第4号議案 定款一部変更について 臨時評議員会の開催について 第5号議案 長い坂の会管理職等の人事について

### 評議員会 定数10名

開催年月日	出席 定数	決議事項
令和2年6月16日(金) 書面による意思決定	10名	報告事項 平成31年度(令和元年)事業報告及び 決算報告について 第1号議案 平成31年度(令和元年)決算報告及 び財産目録の承認について <ul style="list-style-type: none"> <li>・決算報告について</li> <li>・監事 監査報告について</li> </ul> 第2号議案 定款の一部改正について第 3号議案 理事候補者の選任について

		第4号議案 社会福祉充実残高について
令和3年4月7日(水) 書面による意思決定	10名	第1号議案 定款一部変更について

#### 監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
令和2年5月29日(金)	梅田昭彦 中村文雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告等の監査結果</li> <li>一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。</li> <li>二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果</li> </ul> </li> </ul> 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

#### (2) 第三者委員活動報告

事業所名	委員	苦情相談件数	活動内容
特別養護老人ホーム やすらぎの家	高橋善則 門田権四郎 村岡叔世	0件	毎月、施設の状況説明(実績や行事等)の報告を行い、施設運営についての現状を報告する。施設内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。
特別養護老人ホーム うららか春陽荘	島村長生 中山すみ恵	0件	毎月、施設の状況説明(実績や行事等)の報告を行い、施設運営についての現状を報告する。施設内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。
うららか保育園	島村長生 上田和子 田村啓	0件	毎月、園の活動、園児状況や地域での活動等も報告を行う。園内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。

### (3) 法人総括

令和2年1月より世界的規模で広がった「新型コロナウイルス」感染拡大の影響により、法人本部及び各事業所では新型コロナウイルス感染防止対策検討会などを実施し、感染防止対策を第一に活動を進めてきた。

法人では、感染拡大防止の観点より、2月に職員対応・ご利用者対応・面会などの制限・業者及び関連事業所の職員などについて感染予防の重要事項を発令し、職員へ周知し感染予防対策に努めた。

その後、新型コロナウイルス感染者の全国拡大を受け、全職員に対し、責任を持った行動を要請し更なる感染防止対策の徹底を求めるため、県を跨いでの外出の自粛・禁止、やむを得ない場合の対応などを緊急事態宣言発令・まん延防止措置などその都度変更をかけ、最大限の注意行動ができるよう努めた。

法人運営へのコロナの影響では、行政より感染拡大防止のために、「評議員会」などの「書面決議」の通知があり、当法人も評議員の参集をせず「書面決議」を行い、6月16日付で全評議員による同意を得て、書面決議による「承認の決議」がなされた。今後もコロナ感染状況及び行政などの対策に応じた法人運営を行っていく。

規程の変更については、今年度6月にパワハラ防止措置が事業主の義務となったことをうけ、職場における「ハラスメント」は、法人にとって職場の秩序や業務の遂行を阻害し社会的評価に影響を与える問題と捉え、既存の規程の見直しを行った。この規程は、ハラスメント行為の申し出があった場合のためだけの規程ではなく、日常の啓発や職場環境への対応も整備をし、職場でのハラスメントを防止することを目的とした。

高知市が運営していた地域高齢者支援センターが、より身近な場所で、生活相談の充実や地域活動の活性化を目指すため、地域包括支援センターを配置し地区内で地域との連携や活動実績があり、社会資源構築に取り組める法人に委託運営をするということで、今年度6月のプロポーザルの結果、当法人も令和3年2月より「高知市朝倉地域包括支援センター」を在宅介護センターわかくさにて委託運営することとなった。

人材育成については、新人研修などを実施し、さらに定着を促進するため、処遇改善・特定処遇改善加算の活用や、昇格試験などの実施により処遇改善を図った。高齢事業の稼働については、感染予防対策を優先した結果、ショートステイの稼働率減はあるものの、入所施設・在宅系サービスについては、ご利用者・職員健康管理の徹底、入所施設での面会・立入りの制限を継続、在宅サービスでは、送迎時からの発熱など体調管理の継続など、コロナ禍の厳しい状況下において、事業成果の努力は感じられた。

また、重大事故については、服薬マニュアルを遵守していれば防げる誤薬事故が

が発生した。職員の誤薬に対する危機感、安全に服薬介助することの意識づけとマニュアルの見直しが課題となった。また、転倒による骨折が昨年度に比べ件数が多かった。ご利用者の身体的レベルの低下もあるかとは思われるが、環境面についての見直しも含め、利用者処遇の改善や意識の向上など緩むことなく今後も取り組んでいく課題である。

保育事業では、年度当初131名の園児受入のスタートとなった。前年度の退職に対する保育士補充ができず、年度途中の入園の受入もできない状況が続いていたが、11月に保育士採用により、入園希望の多かった0歳児受入をすることができた。

今年度は、新型コロナウイルス感染により、4月中旬から5月連休明けまで登園自粛の協力での保育となった。また、年間行事においても、感染防止対策の徹底と人数制限などのお願いをしたうえでの実施となった。

養成校事業も、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、感染防止対策を取るため、状況に応じて自宅での課題の取組やWebを活用した授業を実施することもあった。実習については、各施設の指導者が来校しての実施や抗体検査を受け、各施設への現場実習に臨んだ。

少子高齢化に伴い、養成校への入学者減少は深刻な問題となっているが、体験入学や説明会など啓発・広報活動などをとおして学生募集への取組に努める。

## Ⅱ 高齢者福祉事業

### [ 1 ] やすらぎの家 関連事業

総括

今期は、一年を通して新型コロナウイルスの感染予防対策に時間を費やし、ご家族との面会を含め、ご利用者の外出や多様な行事イベントが中止になり施設での生活にかなり制約があった一年となった。

感染症対策については、昨年度に続き国や県の動向に合わせマニュアルに基づき、

ご家族・業者の面会・立入りの制限、施設内の行動範囲を定め、ご利用者・職員の健康管理に努めた。職員に対しても職員からの感染持ち込みにも細心の注意を払い、人が密集する場所への行き来や外食等への注意喚起を強化し、止むを得ない事情で県を跨ぐ移動を要する場合は、詳細を届出しその後の健康状態を追跡する等の対応を心掛けた。また、初の試みとしてコロナウイルス感染を想定した実地訓練を行い、定めたマニュアルに沿って行動できるか検証したが、清潔不潔の動線や人員配置等に課題も多く上がり、マニュアル見直しが明確になった。環境面に関しては

「高知県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援（介護分）」の補助金を利用し、非接触サーモカメラ、除菌消臭器、飛沫飛散防止パーティション等を購入した。

また、玄関 3 カ所に洗面台の設置、換気設備の取替工事等の環境整備を行った。

リスクマネジメントにおいては、昨年に引き続き誤薬が発生し服薬マニュアルを遵守していれば防げる事故が続いた。傾向として職員の誤薬に対する危機感も薄れている部分も見受けられるため、安全に服薬介助することの意識づけとマニュアル見直しが課題である。

入所稼働率については、春先の入院日数 200 日越えが 3 ヶ月続いたのが大きく響き、昨年度より入院日数が 235 日多く目標 95%に届かなかった。ただ、10 月以降協力病院との早めの予防・受診を意識し治療に入ることによって入院への重症化は予防ができた。

ショートステイについては、新型コロナウイルス感染予防対策として、受入れ居室 11 床を一つのフロアに固定し、施設入所者との接触を極力少なく出来る体制の環境づくりに尽力した。感染対策の結果、正面玄関に近い場所に居室設定することになり離設事故も 2 件発生したが、感染対策を止めずに受入れ出来る方法を他部署と横の連携を取りながら実施できたことは職員の意識を高めた。

## 1 特別養護老人ホームやすらぎの家

### (1) 介護部門

令和 2 年度の施設の事業計画・介護部門の重点目標に添って新年度の取り組みを開始した。新体制の取り組みとして現場の課題を解決するために介護主任、ケアマネもご利用者の傍で寄り添える環境整備も実施した。体制などを変更した結果、ご利用者の声に耳を傾ける時間が増えケアに活用できた。職員の支援についても、介護職員と共に具体的な対応策を話し合い、速やかな対応策に繋げることが昨年度よりは実施できた。しかし、「新型コロナウイルス対策」が最優先となったことで計画に添って実施できなかったことも多くあり令和 3 年度の課題となった。大きな目的であった「新型コロナウイルス感染防止」については、ご利用者、ご家族のご理解とご協力もあり各々の職員が予防に努めたことで防ぐことができた。また、介護補助職員 1 名を 1 号館に配置することができ、課題であった居室や廊下などの清掃を実施することができたことで、ご利用者に清潔な生活環境を提供できるようになった。

#### ① 各委員会の取り組みについて

今年度は計画としては例年通り各委員会所属職員を決めご利用者情報を多職種共有できるように努めた。

- ・感染症予防委員会に関しては、令和 2 年度目ご利用者の疾患歴を把握し重点的にケアの統一化を図ったことで職員の意識向上に繋がり入院者の減少に繋がった

が、今年度は介護職員のケアは継続して実施できたが、ご利用者の尿路感染予防に繋げることができなかった。

- ・褥瘡予防委員会に関しては、OHスコアを十分に活用することはできなかったが、ご利用者の状態変化について速やかな報告・連絡・相談を行い、多職種必要に応じてカンファレンスを開催しできるだけ短期間での改善に努めた。
- ・事故防止・身体拘束廃止・虐待防止委員会では、新型コロナウイルス感染予防観点から職員が集まる定例会や勉強会の開催は中止をしたが、適宜課題解決に向けた職員への注意喚起やご利用者の個別対応については滞ることがないように実施した。

#### ② 多職種連携について

歯科医師による毎月の口腔ケア指導は対象グループを決めて継続して実施している。毎週水曜日には、歯科医師の訪問診療にてご利用者の状態に合わせた口腔内の観察や治療を実施している。機能訓練については介護職員による生活リハビリをケアプランに添って実施するように取り組んできたが、十分に取り組むことができなかったため身体機能の向上には繋がっていない。

#### ③ 職員研修について

- ・介護保険制度で定められた必須研修（感染予防・身体拘束廃止・虐待防止）については新型コロナウイルス対策が先行したことで遅滞しながらも開催することができた。しかし、例年と違い外部研修への参加ができなかったことから、職員の学びを増やしご利用者ケアに活用することが十分にできなかった。
- ・その他、新人職員への {初期} {中期} {後期} の職員研修を他職種にも協力してもらい、専門職としての資質向上に向け実施できた。

#### ④ 安全・衛生委員会について

安全・衛生委員会の目的に添って毎月テーマを決めて検討し職員に発信した。内容を職員に発信することで職員の健康管理や働く環境整備に取り組んだ。

#### ⑤ ご家族、ボランティアの方々との交流について

昨年度までは年 2 回の家族会とファミリー清掃を通じてご家族との交流を図り、他のご家族や職員との積極的な信頼関係作りに努めていたが、ご家族の面会制限や外部との交流や接触する機会は極力控えた。そのような状況ではあったが、施設外でのボランティアの参加（車椅子の洗浄）については、実施することができご利用者に喜んでもらえた。

#### (1 号館)

感染対策として令和 2 年度の途中から全てのショートご利用者を 1 号館 1 階で受け入れすることになった。11 床のショートご利用者に対して日々の関わりの中で相談員との連携を密にし、やすらぎの家でのより良い生活ができるようにサービスを提供してきた。入所者については、重度（経管栄養）のご利用者に対しては、看護

師と協力しながら必要なケアについて話し合い、少しでも長くやすらぎの家で生活できるように支援を継続してきた。また、活動量が少なく新しく入所されたご利用者に対しても、生活の場として楽しく生活できるような取り組みを実施してきた。

1号館2階では利用者の感染予防の為、食事席の工夫など環境整備に力を入れた。身体拘束、虐待防止の取り組みでは、認知症の利用者に対してケアマネ、看護師と、利用者にとっての安心できる環境作りや対応を検討し実践することができた。褥瘡、拘縮、事故予防の観点から重介助のご利用者にはリフトを使用し、ご利用者、職員双方に安全で負担の少ないケアを提供することに努めた。

#### (2号館)

感染対策を実施する中で、ご利用者の入れ替わりも多くあったが「ご利用者が安心できる環境づくり」を目的に認知症ケアについて職員間で情報共有、どのようなケアが良いのかを話し合い介護、医療、ケアマネとも協力しチームで取り組んだ。1階は館内の温度、湿度管理に課題が発生しご利用者の体調に影響が出てしまった。その後、職員全員で目的意識を持ち環境整備に取り組んだことで改善することができた。2階では、尿路感染症対策について前年度から継続して取り組み入院者減少にも繋げていくことができた。しかし、活動量の多いご利用者が生活するため事故やトラブルも多く発生している。リスク管理に対して環境整備やマンパワーに頼らないケアを実践するなかで職員の意識を向上することはできたが、事故減少までには繋がらなかった。

#### 事故防止委員会

〈重点目標〉ご利用者が安心して生活ができるよう事故防止に努める。

目標を念頭に1年間取り組みを実施してきた。重大事故発生件数は令和元年度14件に対して令和2年度も14件発生している。事故内容としては(上半期8件・骨折3件、誤薬3件、創傷1件、離設1件)(下半期6件・骨折2件、外傷性クモ膜下出血1件、誤薬1件、誤嚥1件、離設1件)となっている。重大事故が増えていないのは努力の結果ではあるが、誤薬事故4件に関しては服薬マニュアルを遵守することで防げる事故であった。ショートステイご利用者の離設事故も2年連続して発生している。重大事故が発生した場合には、ご利用者の心身状態に影響を及ぼす可能性が有る為、繰り返し同様の事故が発生しないように環境整備や福祉用具の活用について積極的に発信をして取り組んだ。

#### 虐待防止委員会

〈重点目標〉虐待ゼロ、不適切なケアをゼロにする。

目標と計画に添って実践するように努力してきたが、コロナ禍の影響により上半期は定例会や研修、総会を開催することが難しかった。通常の委員会の活動が難し

い状況ではあったが、介護職員による「虐待リスクシート」、「良いケアの取り組み書」の活用は継続できた。

また、認知症ご利用者のケアについて目的を明確にした取り組みを実施し、事例検討会を含めた4回の総会を開催することはできた。事例の取り組みについては、虐待防止委員会を中心にご利用者本位のケアを実践することで課題は残ったが介護職員の考え方や姿勢の向上・チームケアに繋がった。

#### ・身体拘束廃止委員会 事業報告

〈重点目標〉身体拘束廃止に関する考え方の理解をする。

目標に関しては、例年同様1年間を通して身体拘束廃止の考え方についてご利用者の状況について多職種で話し合い実践する取り組みを行った。その結果、施設入所前には身体拘束と考えられる事例について、施設入所後は身体拘束に頼らない支援を提供することができたことで、ご家族、ご利用者の満足に繋がった。

#### (2) ケアマネ部門

令和2年度は、体制新たにご利用者の近くですぐに寄り添える環境で仕事に従事したことで、音や声・雰囲気などからも、ご利用者の日々の様子を知ることができた。ケアワーカーともすぐに情報共有ができ連携がとれた。食事の見直しや褥瘡・事故・退院時など、状態に応じてその都度検討会を開いた。

ご利用者の意向を知るために、担当者会以外にも日々の関りの中で思いを聞くことができた。ご家族へは担当者会の報告以外でも、来所時や電話連絡の時などにも意向を伺うように心掛けた。

今年度入所に関しての傾向として、新規で入所されるご利用者の要介護度は次第に重度化しており様々な疾患を持った方も増加していると感じた。また、家族関係が複雑で様々な事情を抱えているケース（独居で身寄りがいない・家族関係が悪い・病気や障害があるなど）が増えている。入所時に必要な医療情報を収集し、入所後の医療連携に役立てるようしっかりアセスメントを行い書類作成に心がけた。

#### (3) 医務室

健康管理について

医務室では利用者健康管理を強化するために、まず体制の見直しを行った。

- ・医務室の出勤体制を見直し、どの曜日でも医療職がしっかり体調管理・予防がき、受診の必要時にも迅速に対応できるよう努めた。
- ・新型コロナウイルス流行を機に、毎日ラウンドを兼ねた全利用者の検温を実施し、観察を強化した。
- ・往診対応に関して、これまで特定職員を担当者にし対応していたが、今年度は看

看護師全員が往診業務の全体の流れを把握し、嘱託医受診準備などの往診業務を協力して行える体制を整えた。その結果、偏りなく全看護師が介護現場で利用者の状態把握をし、医務室内でのカンファレンスが積極的にできるようになった。

- ・ 昼食時には可能な限り看護師がラウンドをし、食事摂取不良者・むせ込みの有無などを確認するようにし、誤嚥性肺炎・脱水の予防・早期発見に努めた。
- ・ 朝の申し送りの他に、14時の状況確認の場を設け、午前中のご利用者の状態、昼食の様子、午後の検温者・要注意者・処置の進捗状況の確認を行い、医務室内での情報共有ができるようになった。
- ・ 心不全・腎不全他、疾患の理解、観察点・注意点など看護書を用いて医務室内で復習した。

以上の体制見直しを行い、医務室内での看護力の向上に努めた。

- ・ 尿路感染症による入院者「0」は達成できなかった。  
観察は強化しても、ケアの部分で介護現場との連携が不十分であったために、予防につながりにくかった。陰部洗浄の手技の徹底、水分補給、室温湿度調整など、早目の対策をしていく必要があった。次年度の課題である。
- ・ 蜂窩織炎入院者減少はしているが、「0」にはならなかった。  
蜂窩織炎は繰り返し発症する利用者が殆どであるため、日ごろの皮膚保清、観察を強化していく必要がある。
- ・ 上半期の入院者が多く、年間 1500 日以内は達成できなかった。  
10 月より協力病院の病棟編成、朝倉さわやかクリニックの開設と同時に入院者数は減少傾向にあった。早めの受診対応、クリニックでのフォローの元、施設で生活しながら治療するケースが増えた事も要因と考えられる。

#### 令和 2 年度 受診・入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
受診	15	9	17	7	19	18	21	15	29	29	29	32	20
入院	12	21	20	19	17	14	10	10	11	10	7	14	13.7

＊職員の健康管理については、生活習慣改善を要する職員が依然多くおり、毎回同じ指導はしているが、今後は改善できる働きかけを考えていく必要がある。

#### 院内感染対策について

- ・ 新型コロナウイルス流行があり、予防的観点からの対策を行った。
- ・ 毎日のご利用者・職員の体温チェック、手洗いを徹底して行った。
- ・ 発熱者が出たときの隔離その他の対応についてマニュアル化はしているが、医務室発信で対応強化が行えきれなかった。感染対策について医務室全員が同じ対応を指示できるよう周知徹底が課題である。

#### 皮膚トラブルについて

- ・ 介護現場での表皮隔離が多かったが、いずれも施設内で完治している。皮膚が脆弱で剥離を繰り返す利用者には保護方法などの介入も行ったが、剥離を減らす

ことは難しかった。褥瘡治療を必要としたケースはあったが、速やかに治癒している。予防の観点からの活動が停滞していたため、次年度は褥瘡委員を中心に予防評価に努めていく。

#### 内服薬・外用薬の管理について

- ・ 内服薬管理については管理体制・嘱託医・薬局・指示出し方法の変更があり、例年になく緊張が高まった一年だった。その中で誤薬も発生し、業務の見直し・薬を扱う意識の改革の必要があった。
- ・ 嘱託医指示出し前の確認ができるよう「嘱託医指示名簿」を作成して活用。
- ・ 翌日の内服薬準備に余裕をもって行うために準備体制の変更を行い、現在も実施中である。
- ・ 臨時薬確認表の運用方法をチェック方式に変更し、臨時薬の切れるタイミングを全看護師が見ても分かるように実施したが、往診後の午後遅くに当日夕から開始の内服薬が薬局から届いた場合など確認作業が不十分になり誤薬につながったケースも発生した。急いでいる時ほど確認を怠らないことを徹底して声を掛け合う様に実施している。

1年を振り返り医務室内にも体制変更にて多少の混乱もあったが、一つひとつ問題の改善に真摯に努めた。まだご利用者の健康管理の予防の強化、多職種との情報共有の強化、医師との連携など課題は多いが、次年度は一つでも課題をクリアし、医務室もチーム一丸となって他部署と連携協力し合えるよう努めていきたい。

#### (4) 給食室

嗜好調査や食事されている場面に立ち会うなど、ご利用者の声に耳を傾け、寄り添う気持ちで献立作成を行った。ご利用者に日々の生活のなかで季節や楽しみを感じて頂くことを目的に行事食の提供を行った。新型コロナウイルス感染症予防のため、グループでの実施など安全面に配慮・工夫をしつつ、モリフーズの全面的な協力もあり以下のように実施することができた。

5月	子供の日、母の日	10月	皿鉢の日
6月	開園記念日	12月	クリスマス、冬至、大晦日
7月	七夕、土用の丑の日	1月	正月料理、七草、鏡開き
8月	山の日	2月	節分、バレンタインデー
9月	敬老の日、秋分の日	3月	ひな祭り、春分の日

その他、各祝日や季節のメニューの提供なども行った。

クリスマス会のケーキ作りなど介護グループ活動へも協力を行った。

栄養管理については、低栄養状態、食思低下などの身体変化に対し他職種に対して

連携、情報共有、発信方法が十分とはいえなかった。しかし、必要に応じて個別のカンファレンスを開くなど取り組みをおこなった。他職種との情報共有の方法、スムーズな個別カンファレンスの開催方法が今後の課題と思われる。

普通食以外の形態のご利用者数や個人対応食の増加など、食事を取り巻く状況に変化がみられている。今後献立作成についてもご利用者の状態に合わせた変更が予測される。またご利用者のニーズ、状態に柔軟に答えていくためにも、給食室としてのスキルアップが今後の課題である。

委託会社（モリグリーンフーズ）には、日々の食事提供はもとより行事食、個人対応食に大変協力を頂いている。今後もこの協力体制を維持しつつ、安心・安全な食事の提供に取り組んでいきたい。

#### （5）事務部門

- ・ 施設の窓口として接遇に十分配慮し、明るく、親切、丁寧に対応に努めたが、他人任せの部分が目立ったため迅速な対応に欠けた。次年度はチーム力を上げ協力し合える体制を作っていく。
- ・ 他部門との情報共有及び業務遂行にあたっては円滑に行えた。
- ・ 施設環境整備についてはコロナ対策がメインとなったため、その他が手薄となってしまった。
- ・ 集合研修が難しかったことから机上訓練を数回に分けて実施。これまでと違った内容の研修が実施できた。

#### （6）生活相談員部門

##### ①ご利用者・ご家族・地域からの相談窓口、家族会の相談窓口

- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、新たな生活様式を模索する年となり、地域の方との交流やイベントを制限しながら、今後の感染症蔓延に際し対応を考える一年となった。年末年始を含め一年を通して外出、外泊についても制限をさせて頂いた。
- ・ 「やすらぎファミリー」の窓口として、ご家族と共に活動をする事を目標にしていたが、納涼祭をはじめ施設内のその他イベント、年2回の家族懇談会・施設内清掃をその都度検討したが最終中止する事となった。

またご家族との面会に関しては人数や方法などの制限を設けながら、施設の入り口や自宅等と介護現場をパソコンで繋ぎ、ご家族とご利用者がリモート面会をすることができた。その他、やすらぎの家の広報誌を年間2回作成し、手紙と一緒にご家族に送付し施設での様子を伝える事が出来た。

##### ②入所希望者・待機者の相談窓口について

- ・入所を希望される方については、例年当施設の見学を勧めていたが、感染対策として外部関係者の施設内立ち入りを制限させて頂いたため、施設入り口で料金を含めた施設の概要説明や電話対応を実施した。入所待機されている方については、可能な限り待機場所へ調査に伺い、当施設での生活が可能かどうかの調査を行う事ができた。

令和2年度 やすらぎの家 入所者状況 (やすらぎの家 ご利用者状況)

市町村	高知市	土佐市	須崎市	南国市	中芸広域	香南市	越知町	いの町	中土佐町	本山町	黒潮町		計
男	26	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0		29
女	66	2	0	1	0	1	1	1	3	1	1		77
計	91	3	2	1	1	1	1	1	3	1			106

\*令和3年3月31日現在

年齢別人員

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～	合計	最高	平均
男	0	6	12	11	0	29	93	80.8
女	0	8	8	41	20	77	101	88.1

\*令和3年3月31日現在

入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	2	3	2	6	0	0	2	0	2	1	0
	女	0	0	3	3	1	2	3	3	0	1	1	2
	計	0	2	6	5	7	2	3	5	0	3	2	2
退所者	男	0	1	2	0	2	1	1	1	0	2	1	0
	女	0	1	4	7	4	1	3	3	0	1	1	2
	計	0	2	6	7	6	2	4	4	0	3	2	2
月末人員	男	21	20	22	25	29	29	29	29	29	29	29	29
	女	85	84	82	79	76	77	76	77	77	77	77	77
	計	106	104	104	104	105	106	105	106	106	106	106	106

サービス利用状況

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	延べ	0	30	600	1563	785
	実利用	0	1	20	56	29
5月	延べ	0	31	623	1500	803
	実利用	0	1	21	54	28
6月	延べ	0	30	654	1538	666
	実利用	0	1	23	54	26
7月	延べ	0	31	654	1663	685
	実利用	0	1	22	57	24

8月	延べ	0	31	731	1619	669
	実利用	0	1	24	56	24
9月	延べ	0	30	729	1584	692
	実利用	0	1	26	55	24
10月	延べ	0	31	671	1685	714
	実利用	0	1	23	57	24
11月	延べ	0	30	690	1710	680
	実利用	0	1	23	59	23
12月	延べ	0	31	685	1782	707
	実利用	0	1	23	59	23
1月	延べ	0	31	589	1799	744
	実利用	0	1	20	60	25
2月	延べ	0	28	560	1751	653
	実利用	0	1	20	64	24
3月	延べ	0	31	602	1807	773
	実利用	0	1	20	60	25

令和2年度 ボランティア・施設来園者状況

来園月日	団体（個人）	来園目的	人数
12月7日	NTTOB	車椅子清掃	18名

令和2年度 年間行事

月日	行事名
4月	花見 各グループ個別
8/31. 9/8. 16. 24. 10/2	防災机上訓練1回目
9月21日	敬老会（鯉のたたき実演）（歳祝い）
9月29日	慰霊祭
12月24日	クリスマス会
3/25. 26. 29. 30. 31	防災机上訓練2回目
3月	花見 各グループ個別

\*上記以外に、各グループでの毎月の誕生会、季節の行事を行いました。

やすらぎの家 研修参加状況

施設内研修

月日	研修名	内容	対象職員
4月1日	訓示・事業計画	施設長、課長より周知	全職種
6月29日～ 7月3日	感染予防委員会	衛生管理食中毒、 手指消毒	全職種
8月31日～10月2日	防災訓練1回目	防災時の対応 施設防火管理 火災発生時の消火、避難、伝達説明、 机上訓練	全職種
12月8日～14日	身体拘束廃止・ 虐待防止委員会	第1部リモート研修 「大変な状況の今だからこそ改めて 権利擁護を考える」	全職員

12月22日	身体拘束廃止・虐待防止委員会	第2部リモート研修 「多様性を尊重した組織、チーム作り」	主任、チーフ、ケアマネ
12月21日～23日	身体拘束廃止・虐待防止委員会	高齢者虐待の要因や種類、予防について	全職種
12月29日～R3年1月	感染予防委員会	感染予防の基本	全職員
R3年3月11日	ご利用者の予防	利用者中心のケア 仁泉会 入川参与	医務室 介護チーフ
R3年3月25日～31日	防災訓練 2回目	消防訓練を図上訓練にて変更し実施	全職員

コロナ禍で3密を避け研修を実地する。

#### 施設外研修

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	人数
11	27	高知市	食と栄養の会 第2回研修会	給食施設の衛生管理において	高知県食と栄養の会	1
11	28～29 12/16, 17, 26, 27 1/23, 24	高知市	高知県介護支援専門員更新研修 研修課程Ⅰ、Ⅱ	更新研修	高知県社会福祉協議会	1
12	8～14	高知市	和2年度 高齢者・障害者虐待防止・権利擁護（オンライン研修）	大変な状況の今だからこそ改めて権利擁護を考える	高知県社会福祉協議会	全職員
12	22	高知市	令和2年度 高齢者・障害者虐待防止・権利擁護（オンライン研修）	多様性を尊重した組織・チーム作り	高知県社会福祉協議会	15
2	16	高知市	高知県老人福祉施設協議会 栄養士研修会 （オンライン研修）	食中毒・感染症を踏まえた食事の提供他	高知県老人福祉施設協議会	3 （委託会社2）
2	17	高知市	給食施設関係者向け食品衛生法の改正並びに HACCP 講習会	食品衛生法の改正について		1
2	20, 21, 27, 28	高知市	高知県介護支援専門員更新研修Ⅱ	更新研修	高知県社会福祉協議会	1
3	19	高知市	令和3年度介護報酬改定等に係る説明会		高知市	2

## 2 短期入所生活介護（ショートステイ）

短期入所生活介護（ショートステイ）の受け入れ窓口として思いやりを持った対応を心がけ、在宅で生活されている方々の日常生活動作の維持という観点を大切にし、

ご利用者・ご家族共に安心してショートステイのサービスを利用していただけるよう努めた。認知症の方が、住み慣れた自宅から環境の違うショートステイで穏やかに過ごして頂ける様に受け入れグループと話し合いを持った。特に今年度は受け入れに当たり、転倒するリスクが考えられるご利用者に対して、安全に生活して頂ける環境作りを心がけた。取り組みの結果、どの職員が対応しても同じ環境が提供出来るように、ご利用者個々に居室の環境を写真に移しファイルにして、安全な環境作りを提供出来た。

また、新型コロナウイルス感染予防対策として、施設内にウイルスを持ち込まないよう受入れ居室等に細心の注意を払い、ショート利用受入れを中止せずに対応できる対策に一番力を注いだ。試行錯誤を繰り返しながら、ショートステイの受入れ居室を正面玄関に近い1号館1階に11床受け入れる事にした。離設のある方の対応や、入所者の方と極力直接接することが少なくなるよう逆隔離ができるような方法を検討し、現在も入所ご利用者と、ショートステイご利用者との生活空間に距離を置いた対応が継続できている。離設の可能性が考えられるご利用者に関しても、安全を考慮しながら、介護だけでなく施設全体の部署で協力しあい可能な限り受け入れる事が出来ている。

また、ご利用者・ご家族には、施設から定期的に新型コロナウイルス感染予防の情報や記事を発信し、ショートステイご利用前の検温や受け入れ時のルールを説明し了承を得るように努めた。又、居宅ケアマネージャーや他サービス事業所とも連携を取り、ご利用者の情報共有に努めた。

令和2年度 やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）

		要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
		1	2	1	2	3	4	5	
4月	延べ			25	47	60	106	5	243
	実利用			3	2	7	11	1	24
5月	延べ			24	29	60	99	11	223
	実利用			2	2	6	8	2	20
6月	延べ			37	43	54	67	5	206
	実利用			4	3	7	6	1	21
7月	延べ			45	56	65	63	8	237
	実利用			6	4	7	7	2	26
8月	延べ			25	40	71	88	14	238
	実利用			5	4	9	9	2	29
9月	延べ			23	19	46	92	20	200
	実利用			4	2	3	10	4	23
10月	延べ			41	14	42	109	9	215
	実利用			5	4	7	10	2	28
11月	延べ			56	13	63	90	35	257
	実利用			5	3	9	9	5	31

12月	延べ			48	5	88	105	19	265
	実利用			4	2	9	9	3	27
1月	延べ			65	4	70	110	16	265
	実利用			6	1	10	9	2	28
2月	延べ			83	16	83	90	16	288
	実利用			6	2	11	9	3	31
3月	延べ			34	16	90	87	7	234
	実利用			5	2	14	10	2	33
合計	延べ	0	0	472	286	702	1019	158	2871
	実利用	0	0	55	31	99	107	29	321

### 3 グループホーム ほのぼのの家

本年は新型コロナウイルス感染予防対策の中で日常の家事動作に参加して頂ける内容等にも制限ができ、活動量としては低下が見られた。

- ・ 余暇活動としては十分ではないが運動や食事の楽しみ等を中心に取り組む事が出来た。
- ・ ご家族や地域の方々、ボランティアの方々とは面会の制限等もあり十分な関わりを持つ事は出来なかった。
- ・ 関係医療機関や訪問看護との連携を図り、早目の病院受診等が行えた事で入院者減に繋がった。
- ・ 職員研修においても、内・外部研修ともほとんど参加が出来ておらず、来年度は計画にオンライン研修等を中心に参加出来るように努める。

#### (1) 利用状況

介護状態		入居者年齢別		入居前状況		日常生活自立度		認知症の程度	
要介護 1	1名	86歳-	6名	自宅	4名	J1	1名	I	3名
要介護 2	3名	90歳	3名	老健	1名	J2	1名	Ⅲ a	3名
要介護 3	4名	91歳-		病院	3名	A1	1名	Ⅲ b	1名
要介護 4	1名	95歳		その他	1名	A2	2名	IV	2名
要介護 5	0名					B2	4名		名

#### 日常生活動作状況

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自力	2名	8名	3名	3名	3名
一部	7名	1名	6名	6名	6名
車椅子					
全介助					

(2) 入退所者・入退院者状況

	入院者	退院者	入居者	退居者
5月	1名			1名
6月			1名	
11月	1名	1名		
1月	1名		1名	1名
入院者3名、入居者2名、退居者2名				

(3) 活動状況 (外出支援、ボランティアの受け入れは中止)

6月	お笑い運動会
7月	ほのぼのの家 夕涼み会 (駐車場)
9月	敬老会・さんま大会 (災害時の炊き出し訓練)
12月	餅つき・クリスマス会
3月	花見ドライブ (7人参加)
誕生会	4月(1名)、5月(1名)、6月(1名)、1月(3名)、2月(1名)、3月(2名)

(4) 内部研修状況

研修名	開催日	場所	参加者
身体拘束、虐待防止委員会	毎月第1木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外 (7名)
感染症対策委員会	毎月第1木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外 (7名)
事故防止検討委員会	毎月第1木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外 (7名)

(5) 外部研修参加状況

研修名	開催日	開催者	場所	参加者
令和2年度介護事故に関する研修会	11/5	高知市介護保険課 事業係	ほのぼのの家食堂 (オンライン研修)	7名
高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修	12/8 ~ 12/4 12/18	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	ほのぼのの家食堂 (オンライン研修)	7名

## [2] うららか春陽荘関連事業

[総括]

全ての事業所において、大変厳しい1年となった。

いつ入り込んでくるか分からない新型コロナウイルス感染の恐怖を抱きつつ、日々の事業を運営するため入退所、面会、業者等の出入り、利用者・職員の健康状態等に常に

注意を払った。また、万が一感染者が出た場合を想定し、必要物品を準備し、シュミレーション対応をしてきた。このような状況もあり業績は伸び悩み、厳しい経営を強いられたが、少しでも経営改善を進めるために委託業者等の契約を見直し、また職員でできることを協力し合い対応できるよう経営改善を図った。

#### 【地域交流】

コロナ禍により年2回の清掃活動のみの活動となったが、職員10名が積極的に参加をすることができた。

#### 【災害対策】

災害訓練についても、今年度は地域共催ができなかったが、災害対策委員会が中心となり備品の確認、整理を行うことができた。また、近隣のグループホーム（認知症対応型）、保育園から災害時の避難所利用の申入れがあり、今後地域と連携し訓練を行っていく。

#### 【医療連携】

徐々に繋がりができてきたように思う。今後、職員間、職種間がご利用者、ご家族のためにどのように協力連携していくかが課題となる。

#### 【事故防止・苦情対応】

事業所全体を通して多数発生し、対応に苦慮した。施設としてどこまでご家族の要望に応じていくのかが、今後の課題である。

#### 【職員研修】

今年度は研修会場への参加を止め、リモート研修に参加をし、支障なく受講することができた。また、初任者研修においても、対面授業せずリモートでの授業を実施した。（研修費等の経費は縮減できたが、職員の心的負荷は増加傾向にあると考える）

#### 【経費削減】

全事業所において人件費率が高く令和元年度は全体で、77%であったが、今年度は退職者の補充はせず、配置転換や業務改善を行い対応したため、人件比率は73.6%となり適正配置、人件費の縮減が図れたと考える。

#### 【事業運営について】

入退所については、特養は一年を通して入退所が多かった。空床を作らないよう、退所後の早急な受入れに取り組んできたが、空床日数は減少とならず、平均稼働率は93.5%となった。また、高知市助成事業（高齢者施設等入所前PCR検査事業）を活用し、高知市在住の在宅から入所される方に入所前のPCR検査を実施したが、対象とならなかった入所者に関しては、コロナ感染防止の観点から一定期間、可能な限り個室対応をするなど個々の対応を実施するよう尽力した。

また、ショートステイは特養とは別に出入口を構え、特養との行き来を制限し、デイサービスについてもショートステイ同様の対応を行い、他事業所との接触を防止した。また在宅事業については、家族の状況等により利用を控えていただく

よう協力を得て対応を行った。

この一年間のコロナ対応が日常化し、日々の生活に組み込まれてきたが、コロナ感染防止により行事や外出ができなかったため、入所者・利用者の満足を得ることができなかった。居宅介護支援事業所については、訪問や担当者会等への参加を控えないといけない時期もあり、電話対応となり十分なサービス提供が行えなかった。

### (1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘

ノーリフティングケアを身体介護のベースとし、効果的に福祉用具（機器）を使用し、抱え上げや抱き起しなどのケアを見直し、ご利用者・職員双方に筋緊張と負担の少ないケアを提供する事ができた。

介護の基本である「コミュニケーション」の徹底を図った。意図的且つ継続的な声掛けと個別性・環境配慮を踏まえた声かけを十分に周知し実施した結果を、データ分析することはできなかった。したがって根拠に沿った介護の基本を展開する為の教育・伝達・評価・分析を一元化した教育システムを導入する必要がある。

【活動実績】入所定員：80名 ※稼働率 95%を目標値とした

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	91.38%	93.47%	92.04%	92.70%	91.81%	94.33%	95.24%	95.46%	97.06%	92.18%	90.94%	95.48%	93.51%
達成率	96.18%	98.39%	96.89%	97.58%	96.65%	99.30%	100.25%	100.48%	102.16%	97.03%	95.72%	100.51%	98.43%

### 【行事等】

4月	お花見ドライブ
5月	空調設備一斉清掃
6月	紫陽花鑑賞
7月	七夕
8月	うららか喫茶・防災訓練
9月	敬老会
10月	映画鑑賞
11月	お芋ほり・作品展
12月	お餅つき・年末大掃除
1月	初詣
2月	節分（ボウリングゲーム）・防災訓練

令和2年度は新型コロナ予防対策として、外部からのボランティアの受け入れができず、施設全体での行事やご家族、地域の方と触れ合うことはできなかった。それでも、グループごとに職員と一緒に行事を楽しんでいただくことができ、ユニットの職員もいつもとは違った雰囲気の中ご利用者と関わることで、より信頼関係を深めることができた。

【苦情相談】 4件

病院受診対応（連絡含む）の際、家族様に伝えるべきことがしっかりと伝わっておらず、家族様に不安を与えた。

（対策）

病院受診が必要な場合など医療に関することは、基本看護師から家族に連絡をする。受診対応する職員は医師から聞いたことなど重要な情報は必ず家族に伝える。

ご利用者が趣味のパズルをリビングで製作中、職員が食事の準備の為、本人の了承を得ずパズルを動かしてしまったことで、不快な思いをさせてしまった。

（対策）

職員側の都合でなく、ご利用者の気持ちに寄り添った個別の援助を行わなければならないことを全職員に再度周知した。

電話対応で職員同士の伝達ミスあり、折り返しかけてくださった家族様に対して失礼な対応となり、家族に不信感を与えた。

（対策）

職員は、電話を間違えたり、繋がらなかった場合は、すぐに事務所に伝えることを忘れない。また、電話を取った職員は春陽荘の代表として丁寧な対応ができるようにすることを周知した。

面会ついて、土日、祝日でないと都合がつかない家族もいることを理解し、なんとか対応してほしい。

（対策）

第2・4土曜日（10時、11時、13時、14時）面会時間10分と制限はあるが面会可能とした。

【外部研修】

開催月	内 容
9月	介護施設で実践できる予防的スキンケア
10月	安全運転管理者講習
11月	介護事業所のための能力開発セミナー&キャリアアップ講習
1月	福祉・介護業界向けオンラインセミナー
	介護ロボット高知フォーラム 2020
2月	アセッサー養成研修
	第1回中央ブロック介護職員研修会
	介護報酬改定のポイント
3月	介護報酬改定セミナー

【内部研修】

開催月	内 容
4月	新年度式（事業運営、職員倫理、事業計画等）
5月	新型コロナウイルス感染症・食中毒～正しい手洗いの方法とマスクの付け方～
6月	虐待防止・身体拘束廃止基本知識とパーソンセンタードケア
7月	OH スケールの評価方法習得と退色反応に見方
9月	リスクマネジメント研修

11月	季節感染症対策～ノロウイルスについて～ 救命講習
1月	高齢者虐待防止・介護従事者研修映像よりよい介護を目指して視聴学習
3月	介護事故発生時の対応

## (2) 居宅介護支援事業所はるの

令和2年度はケアマネージャー1名が増え4人体制となったが、目標に達することはできなかった。

新型コロナウイルスの流行とそれに伴う感染予防対策への取り組みにより事業計画に位置付けていた居宅介護支援事業所が中心となって地域の相談窓口と認知される施設となる取り組みを十分行うことはできなかった。平成31年度に開催した介護者が交流する機会も令和2年度は設けることができなかった。年度を通して新型コロナウイルスへの対応が求められ、活動は大きく制約を受け研修等への参加機会や他事業所との意見交換の機会が少なかったことは残念に思う。一方、ZOOMやLINEといったツールを使用して研修に参加したり、会議を行ったりできるようになったことは今後の居宅介護支援事業所の運営にも役立つと考えている。居宅介護支援事業所の広報を家庭や宅老所、店舗への配布を春野町や土佐市内の高齢化が進んだ地域で行った。

### 【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	110人	110人	111人	107人	104人	105人	118人	110人	118人	113人	109人	105人
	91.6%	91.6%	92.5%	89.1%	86.6%	87.5%	98.3%	91.6%	98.3%	94.1%	90.8%	87.5%
支援	26人	30人	32人	30人	31人	31人	31人	30人	30人	31人	30人	26人
	86.6%	100.0%	106.6%	100.0%	96.7%	103.3%	103.3%	100.0%	100.0%	103.3%	100.0%	86.6%

## (3) デイサービスセンターはるかぜ

接遇について事業所全体で理解を深め取り組んでいたが、業務に生かすことが不十分であり、残念ながらご利用者、ご家族、他事業所より言葉遣い、口調についてご意見をいただくことがあった。その後、接遇チェックシートを利用して自己評価のみでなく、他者評価による個別面談を毎月実施することで、接遇に対する意識付けができ、言葉遣いや口調、声の大きさ等に改善が見られた。そして、ご利用者、ご家族との信頼関係を築くため、今後も接遇を意識した対応を継続していくことが課題となった。

介護事故については、ご利用者の行動予測や環境整備が不十分であったことが原因となった転倒事故や身体状況の把握不足による表皮剥離が発生した。事故を未然に防ぐため、ご利用者の状態観察による気づきや環境整備の徹底等のリスクマネジメント能力の向上が必要である。

運営に関しては、下半期に病状の悪化や転倒による骨折などで入院者が例年以上に増

加し、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努めたが、新型コロナウイルス感染防止の利用控えもあり稼働率低下になった。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	24.2	24.6	25.6	24.5	24.7	25.6	22.7	22.4	22.0	21.0	22.6	23.9	23.6
稼働率	80.7%	81.9%	85.2%	81.6%	82.3%	85.3%	75.6%	74.7%	73.4%	69.9%	75.4%	79.6%	78.8%
達成率	94.9%	96.5%	100.4%	96.1%	96.9%	100.4%	89.0%	87.8%	86.3%	82.4%	88.6%	93.7%	92.8%

【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
9/23	高知市	福祉サービス苦情解決セミナー	高知県運営適正化委員会	1名
11/13	オンライン	介護事業所のための能力開発啓発セミナー&キャリアアップ講習会	高知県老人福祉施設協議会	2名
12/18	高知市	高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
5月	感染症予防（コロナ・食中毒）
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
7月	緊急時の対応
9月	介護事故防止
9月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
11月	感染症予防（コロナ・冬季感染症）
12月	接遇
1月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
2月	介護事故防止
2月	認知症ケア

【苦情相談】

言葉遣い	3件
送迎車の駐車	1件

#### (4) デイサービスセンターそよかぜ（認知症対応型）

ご利用者と目線を合わせ優しく穏やかに話しかけること、さらに意図的に身体に触れることを意識してコミュニケーションを図ることを実施した。また、認知症の症状を理解することだけでなく、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り、職員間で情報共有を行った。そして、統一したケアを行うことで周辺症状の軽減に繋がったケースもあり、適切なケアの必要性を改めて実感するとともに、職員のやりがいにも繋がった。今後は、より専門性の高いケアを提供するとともに、ご家族を含めた支援が必要である。

介護事故については、職員の情報共有と見守り不足による離設や危険予測が不十分であった転倒、確認不足による服薬抜かりが発生した。再発防止のため、介助方法の見直しと日々の業務の決まり事やマニュアルの周知徹底をした。

運営に関しては、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努め、例年の1.7倍の新規利用者数となったが、1年を通して施設入所のご利用者が多く介護負担増大による在宅生活の継続困難が見られる傾向にあった。それに加え下半期には入院者が増加し、稼働率が著しく低下した。

#### 【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	9.3	7.8	8.7	9.6	9.1	8.2	9.2	8.1	7.3	6.6	6.4	6.7	8.1
稼働率	77.5%	64.8%	72.5%	79.8%	76.1%	68.3%	76.6%	67.5%	60.5%	55.9%	53.0%	55.4%	67.3%
達成率	116.3%	97.2%	108.8%	119.8%	114.1%	102.5%	114.9%	101.3%	90.7%	82.3%	79.5%	83.1%	100.9%

#### 【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
9/30～10/1	高知市	認知症対応型サービス事業管理者研修	高知県社会福祉協議会	1名
11/13	オンライン	介護事業所のための能力開発啓発セミナー&キャリアアップ講習会	高知県老人福祉施設協議会	1名

#### 【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画

5月	感染症予防（コロナ・食中毒）
5月	認知症ケア
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
7月	緊急時の対応
9月	介護事故防止
9月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
11月	感染症予防（コロナ・冬季感染症）
12月	接遇
1月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
2月	介護事故防止

### （５）短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

コロナウイルス感染拡大防止の為、ユニット内での体操やレクリエーション、屋外散歩、平行棒歩行練習を実施した。ユニット内での体操は興味の持てないご利用者からの不満の言葉聞かれた為、活動内容をその都度変更して対応した。

コロナ感染状況が落ち着いている時は、作業室活動を実施し、多くのご利用者に参加して頂いた。ご利用者自ら積極的に参加され、意欲的であった。

誤薬事故については、準備段階の仕分けミスであった。準備段階で入念な確認を行うことを周知した。

離設事故件数が増加しており、職員間で連携し見守り所在確認を意識した対応を継続していくことが課題となった。

#### 【活動実績】 利用定員：20名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	18.0	16.7	16.9	17.2	16.2	15.7	17.4	17.9	18.0	18.4	18.4	17.5	17.4
稼働率	90.2%	83.6%	84.4%	86.0%	81.0%	78.3%	86.8%	89.5%	90.0%	92.3%	92.2%	87.9%	86.9%

#### 【外部研修】

月	開催地	研修名	研修内容	参加人数
10	ふくし交流プラザ	安全運転管理者講習	安全運転管理	1名
11	WEB研修	能力開発セミナー	自立人間を育てるコツ	1名
11	WEB研修	キャリアアップ講習	コーチング・質問力を高める	1名
12	WEB研修	虐待防止及び権利擁護の推進	改めて権利擁護を考える	1名
12	WEB研修	虐待防止及び権利擁護の推進	多様性を重視した組織チームづくり	1名

2	WEB研修	介護保険事業者研修会	高知市救助救出計画 地域包括支援センター再編強化 介護事業所における事故防止について 自動車安全運転センターよりお知らせ	1名
3	総合安心センター	介護報酬改定説明会	令和3年度介護報酬改定の主な事項	1名

【内部研修】

開催月	内 容
4月	新年度式（事業運営、職員倫理、事業計画等）
5月	感染予防（コロナ・食中毒）
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
9月	介護事故防止（リスクマネジメント研修）
11月	感染予防（コロナ・冬季感染症）・救命講習（高知市消防局）
1月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
2月	消防訓練
3月	介護事故防止（事故発生時の対応）

(6) 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

数年前よりシステムコールの不具合があり、県に報告していたが予算取りやシステムの選定等に時間を要したとのことであったが、今年度システムの入替えができ、安心して生活できるようになった。新型コロナウイルス感染の影響を受け、生き生き百歳体操等の集まりも中止せざるを得なかった。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活指導	実	0	2	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	6
	延	0	2	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	6
安否確認	実	27	27	27	27	26	26	25	25	24	24	24	24	306
	延	381	335	401	330	318	340	310	301	331	278	247	295	3867
家事援助	実	16	14	13	11	9	11	13	8	10	12	9	11	137
	延	125	128	131	76	90	109	68	76	80	89	65	70	1107
緊急時対応	実	2	1	2	1	1	2	1	1	3	1	1	0	16
	延	2	1	2	1	1	2	3	1	3	1	1	0	18
関係機関との連絡	実	2	3	1	2	0	1	1	2	3	3	0	1	19
	延	2	3	1	2	0	1	1	2	3	3	0	1	22
その他	実	0	0	5	5	0	0	4	4	4	0	0	4	26
	延	0	0	10	20	0	0	17	16	4	0	0	15	82

(7) うららかキッズガーデン

新型コロナウイルスの影響で事業所の特性である高齢者との交流を図ることが出来なかった。保護者とは情報交換を密に行い、望ましい生活習慣の確立に向けて取り組

んだ。また子育て相談担当を決め年間を通して支援を行うことができ、次年度にも繋げていきたい。

【入所児童数】 定員 11 名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳						2	2	2	2	2	2	2
	1歳												
	2歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
地域	0歳						2	2	2	1	1	1	1
	1歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
	2歳	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3
合計		7	7	7	7	7	8	8	10	9	9	9	8

ア 個々の健康状態や子どもたちの様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更する等、柔軟な保育を行った。

イ 保護者とは送迎時の会話や連絡帳を通して、園での子どもの様子を細かく伝えていった。育児相談を受けることも多く、保育士としての専門性を生かした助言をしたり、園で出来ることを考える等、丁寧に対応していった。

ウ 職員間では、月一回の職員会、毎日のミーティングの他、伝言ノートを活用し、共通理解を図った。連携が取れたことで、事故も無く、感染症拡大を防ぐことができた。エ R  
2年度苦情受付対応件数（1件：保育士の子供に対する態度や関わり方について）

【研修参加】

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
9	4	高知市	乳児保育研修	乳児に必要な保育の知識を得る	高知市保育幼稚園課	1
10	26	高知市	食育研修会	衛生管理・離乳食の基礎知識	高知市保育幼稚園課	1
10	29	高知市	感染症対策研修会	基礎知識と予防方法	高知市保育幼稚園課	1

・キャリアアップ研修

食育、アレルギー研修	1名	保護者支援	1名
保健衛生 安全対策研修	1名	マネジメント	1名
障害児保育研修	1名		

(8) 春陽荘各種委員会活動報告

事故防止委員会

【介護事故件数】

	事故件数	ヒヤリハット	ヒヤリカード
特養	105	22	163
ショート	41	0	74
デイ	6	2	0

【重大事故件数】 ※行政報告対象

	重大事故	転倒		離設	誤薬	異食
		骨折	受診を要する状態			
特養	18	7	5	1	3	1
ショート	9	3	1	2	3	0
デイ	3	1	0	1	1	0

介護事故発生を察知しリスクの洗い出しを行う為、ヒヤリハット（カード含む）件数の増加を取り組みとして行った。結果としては施設全体で 237 件の報告となった。しかしながら、ヒヤリハットと事故の結びつきを予測し活用した事故の回避に繋がったケースが少なくヒヤリハットを活かす分析を行う課題も改めて浮き彫りとなった。また、目標に掲げたヒューマンエラーにて発生する誤薬に関しては7件と少なくない状況であった。内容としては単純な与薬（行き間違い・行き忘れ）ミスであった。これらを含め後の取り組むべき課題が明確になった。

感染予防対策委員会

活動内容：毎月 県内及び施設内の感染症情報の周知

4～5 月 令和 2 年度 委員会活動計画立案、内部研修実施①

「新型コロナウイルス感染症防止に向けた取組」

- 6 月 新型コロナウイルス予防対策について、施設内研修報告
- 7 月 新型コロナウイルス予防対策について
- 8 月 尿路感染症予防について  
感染症マニュアルの見直し・改定
- 10 月 「高齢介護施設における感染対策 インフルエンザ」資料配布
- 11 月 施設内研修実施②
- 12 月 施設内研修報告
- 1 月 施設内感染対策の問題点の抽出・改善について検討  
「新型コロナウイルス」感染症マニュアル追加
- 2 月 新型コロナワクチン接種について
- 3 月 尿路感染症予防・注意喚起

## 研修実施

### ① 「新型コロナウイルス感染症・食中毒～正しい手洗い方法とマスクのつけ方」

参加者 122 名

5 月 20～31 日 作成した資料と厚生労働省の動画を活用

### ② 「季節感染症対策～ノロウイルスについて～」

参加者 75 名

11 月 4・6 日の 2 日間で看護師より各部署のリーダーへ研修実施

11 月 20 日までに、リーダーより一般職員へ伝達研修を行う。

取り組み：

○新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、新たなマニュアルの作成。

感染マニュアルの見直しと改定を行い、全職員への周知と予防対策の徹底を呼び掛けた。

○肺炎・尿路感染症の発症が多くみられ、資料配布し予防について再確認と注意喚起を行った。

## ケア向上委員会

月	内 容
4 月	今年度の基本方針、目標について、活動計画立案
6 月	「虐待防止・身体拘束廃止」内部研修行う (虐待防止・身体拘束廃止基本知識とパーソンセンタードケア)
7 月	研修の振り返り
8 月	言葉がけ、身体拘束、虐待に関する課題を持ち寄り検討
9 月	「虐待防止・身体拘束廃止」取り組み周知 (アンガーマネジメント)
10 月	アンガーマネジメント診断、報告書まとめ 「いいとこ見つけ隊」の実施方法について
11 月	「いいとこ見つけ隊」各ユニットより良いと思ったケア、取り組み発表
12 月	「虐待防止・身体拘束廃止」取り組み周知 (接遇マナー) 1 月の内部研修について検討
1 月	「虐待防止・身体拘束廃止」内部研修実施。 (高齢者虐待防止、介護従事者研修映像よりよい介護を目指して) 視聴
2 月	研修後の振り返り、不適切なケア報告 1 件。
3 月	次年度の事業計画について/今後の取り組み月間予定表

高齢者虐待・身体拘束廃止に向けての取り組みを現場でかかわるすべての職員を対象に定期的に行なった。現場のケアワーカー対象には特に接遇、言葉がけの大切さを呼びかけ、ご利用者一人一人を理解し、個別の支援ができるよう努めた。

## 褥瘡バスターズ委員会

OHスケールにてリスク評価を行い、高リスクのご利用者には予防ケアに取り組んだ。褥瘡者は延べ 8 名で施設発症者は延べ 7 名であった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡者	0名	0名	0名	2名	1名	1名	2名	3名	1名	0名	0名	1名

早期発見をし、殆どのご利用者は概ね 1 カ月以内に治癒することができた。

※7 月内部研修【OH スケールの評価方法習得と退色反応の見方】参加者 42 名

#### 災害対策委員会

コロナ禍により地域の方々との災害訓練はできなかったが、施設では年 2 回の自主訓練と備品の整理、確認、点検を月 1 回担当を決め実施してきた。

#### 美化委員会

5 月空調フィルター・居室内換気フィルター清掃を実施。業者依頼より低コストにて実施が行えたが、人員と終日の作業を必要とした為、次年度は空調と居室内フィルターを分けて実施する必要がある。各ユニットでは委員が、積極的に整理・整頓・清掃意識し取り組めた。

12 月空調フィルター清掃、大掃除を実施。大掃除には多数の職員が参加、施設の窓等を中心に行った。同時にフィルター清掃を男性職員中心に実施、5 月 1 回目より手早く作業が出来た。環境美化としての活動を精力的に実施できた。

#### 安全衛生委員会

今年度は、職場巡視に重点を置き、職場環境の改善を行うことができた。巡視者は、産業医、衛生管理者以外に委員メンバーを選任し、自部署以外の職場環境を客観的に観察、評価し、改善の内容を共有し施設全体での取り組みができた。また、コロナ禍におけるハラスメントやストレス対処法の伝達を行い、ハラスメント防止とストレス軽減を図った。労働災害は、通勤 1 件、業務災害 0 件であった。

### [ 3 ]在宅介護センターわかくさ関連事業

#### 1. デイサービスセンター くつろぎの家

##### 【サービス】

ご利用者の状況に応じた個々の目標を把握し自立支援につなげるためのかわりができるよう職員間で意見を出し合い工夫し実施した。具体的に身体機能の維持を図ることと在宅生活が継続できるように生活リハビリを中心に楽しみながら無理のない内容とし、継続して行えるオリジナル体操やかみかみ百歳体操等の機能維持訓練を行なった。

活動面では個々の趣味をお聞きしプランターでの野菜作り、簡単な調理の参加、おやつ作り、季節ごとの貼り絵や折り紙、塗り絵、毎月のカレンダー作り等の身近な内容の活動を行った。特に集団レクリエーションでは、ご利用者にいかに楽しんでいただくか

を職員同士が常に話し合いながら実施できた。新型コロナウイルス感染症の影響を受け行事の中止もある中、生活の中に楽しみを持っていただきたいと、感染防止を図ったうえで規模を抑えたレクリエーション縁日や運動会など季節のイベントも行えた。中には、利用当初は臥床する時間が長かった方が、起きて過ごされることが多くなったということもあった。これからも引き続き心身の活性化を図り「楽しかった、また参加したい」と思っただけのようなレクリエーションとサービスを提供できるよう努めていく。

介護事故では介護ミスや見守り不足といった防げる事故が多かった。要因については職員同士の連携・確認が疎かになっている等の課題が考える。業務優先傾向があり目のことばかりに気を取られ、リスクに対する意識が薄くなっている。今後ご利用者の立場に立ち考え行動することに今一度意識の向上を図る必要がある。そして対応策等について周知・徹底を図り、ご利用者の心身の状況を把握し対応することで介護事故ゼロを目指せるように情報共有や予測、リスクマネジメントへの理解を深めご利用者の安全が守られるように技術等の向上も必要である。

#### 【運 営】

1日当たりの平均利用数は約 23.2 名となっており目標である 25 名には届かなかった。要因として年度初めから新型コロナウイルス感染症予防での長期休みを希望される方が目立ったこと、また夏から秋にかけて、さらに寒くなる季節の変わり目では体調を崩す方も多くなり入院に至るケースが目立っている。長期休みとなる方に対しては、電話にて状態確認を行っており、退院後の早期再開につなげることができた。感染予防により休まれている方に対しても電話にて状態確認と安心して利用再開につなげるために、感染予防の徹底を図った。今後もご利用者の日中の状態の変化に気づくための観察力と細やかな情報をご家族やケアマネジャーに報告相談することの重要性と責務について改めて認識を深めることが必要。そして昨年度に引き続き定期的な居宅への訪問営業の継続や夏冬場の特に入院者等が増える見込みのある時期に向けて新規ご利用者の受け入れ、入院者の再開に向けた再調整を行う。また例年同様の夏場の脱水予防の対策には、ゼリー提供や味の種類を増やし水分量の確保に努め、体調管理を行うことで防げる入院や、冬場も同様に感染症予防対策の徹底が必要である。

#### 【行事等】

4 月	バイキング・おやつクッキング・誕生会
5 月	母の日・おやつクッキング・バイキング・誕生会
6 月	父の日・バイキング・誕生会
7 月	バイキング・誕生会
8 月	バイキング・誕生会
9 月	レクリエーション縁日・敬老会・バイキング・誕生会
10 月	バイキング・誕生会・ハロウィン・やきいも

11月	運動会、バイキング・誕生会
12月	年忘れ会・バイキング・誕生会
1月	バイキング・誕生会
2月	節分・バイキング・誕生会・バレンタイン
3月	バイキング・誕生会・ひな祭り

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	17	15	16	16	16	18	20	20	20	17	19	18	212
要介護2	11	14	14	15	14	14	12	12	13	12	11	12	154
要介護3	11	11	11	7	7	8	8	10	8	10	7	7	105
要介護4	10	10	10	10	12	11	8	10	10	8	12	11	122
要介護5	4	7	5	5	5	5	6	6	7	7	7	8	72
合計	53	57	56	53	54	56	54	58	58	54	56	56	665
1日平均	21.6	22.7	23.8	23.1	22.2	23.0	23.1	23.9	22.9	21.0	22.0	22.4	22.6
平均介護度	2.5	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6	2.5

【総合事業延利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	4	4	4	6	5	6	4	4	4	4	4	3	52
要支援2	8	10	18	20	22	14	12	10	12	12	10	14	162
合計	12	14	22	26	27	20	16	14	16	16	14	17	214
1日平均	0.40	0.45	0.73	0.84	0.87	0.67	0.52	0.47	0.52	0.52	0.5	0.55	0.59

【職員研修等】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	新規採用者研修 勉強会「新型コロナウイルス感染症予防にて中止」	
5月	勉強会「新型コロナウイルス感染症予防にて中止」	
6月	リモート勉強会「食中毒」	
7月	リモート勉強会「身体拘束・虐待」 リモート伝達研修	
8月	リモート勉強会「認知症について」	新型コロナウイルスリスクマネジメント

	リモート伝達研修	ト研修 (Web 講座) 認知症介護基礎研修 (2 名)
9 月	リモート勉強会「高齢者に多い疾患について」 リモート伝達研修勉強会	アサーティブコミュニケーション研修 (1 名)
10 月	リモート勉強会「季節感染症について」 リモート伝達研修	指導的職員研修 (1 名) 認知症介護実践者研修 (1 名)
11 月	リモート勉強会「産業医による糖尿病の話」	
12 月	リモート勉強会「新型コロナウイルス感染症」	認知症介護実践者研修 (2 名)
1 月	リモート勉強会「血圧について」 リモート伝達研修	
2 月	リモート勉強会「介護事故事例検討会」 リモート伝達研修	福祉人材確保支援セミナー (Web 講習) 中央ブロック介護職員勉強会 (1 名) 認知症介護実践者研修 (1 名)
3 月	リモート勉強会「振り返り」 リモート伝達研修	

## 2. デイサービスセンターわかくさの家

### 【サービス】

住み慣れた場所でご本人らしい生活が継続できる様、ご利用者一人ひとりの生活環境を知り、ニーズに合ったサービス提供を心掛け、心に寄り添い、理解し、出来る事を見守りながら、季節を感じて頂ける様、コロナウイルス感染予防対策を講じながら、職員も共に四季折々の創作活動・おやつ作り等、計画・実行し「楽しみ・笑顔の場」提供すると共に、ご利用者の日々の変化にも気付ける様心掛けた。また、ご家族に対しては

『介護の日』にご利用者の在宅生活を支えてくれている感謝の気持ちを込め花束をプレゼントし、ご家族の心に寄り添える様に努めた。

職員研修ではコロナ禍で県内外の研修が中止となるもセンター内でリモートによる勉強会を行いスキルアップに努めた。

### 【運営】

入院・施設入所等で利用中止者が見込まれる時には、事前に自居宅・外部居宅に連絡を行い、空き曜日を最小限に留めるよう努め年間を通じて安定した稼働率を維持する事が出来た。又、ご利用者の心身の状況に合わせ再度の迎えや振替利用をケアマネ・ご家族了解のもと調整しながら行い稼働率維持・向上に努めた。

### 【行事等】

4月	誕生会・壁画作り・生け花
5月	誕生会・おやつ作り
6月	壁画作り・おやつ作り
7月	壁画作り・誕生会・七夕
8月	誕生会・創作・千羽鶴作り・スイカ割り
9月	誕生会・創作・敬老会
10月	誕生会・月見団子作り・ミニ運動会
11月	誕生会・壁画作り
12月	誕生会・年忘れ会
1月	誕生会・新年遊び・おやつ作り
2月	誕生会・壁画作り・おやつ作り
3月	誕生会・創作・おやつ作り

【要介護延利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	15	16	21	22	21	22	9	12	10	18	20	22	208
要介護2	51	44	48	40	34	32	39	55	55	48	69	78	593
要介護3	60	73	94	106	89	90	94	91	94	82	83	109	1065
要介護4	42	42	30	29	27	49	50	47	49	27	25	30	447
要介護5	41	38	41	42	37	30	19	21	23	19	20	23	354
合計	209	213	234	239	208	223	211	226	231	194	217	262	2667
平均	9.5	10.1	10.6	10.4	9.9	10.1	10.4	10.8	10.0	9.2	11.4	11.4	10.3
平均介護度	3.0	3.1	3.0	2.9	2.8	3.0	2.9	2.8	2.9	2.7	2.7	2.7	2.9

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	新規採用者研修 勉強会（染症予防にて中止）	
5月	勉強会（染症予防にて中止）	
6月	リモート勉強会「食中毒」	
7月	リモート勉強会「身体拘束・虐待」 リモート伝達研修	

8月	リモート勉強会「認知症について」 リモート伝達研修	新型コロナウイルスリスクマネジメント研修 (Web 講座)
9月	リモート勉強会「高齢者に多い疾患について」 リモート伝達研修勉強会	
10月	リモート勉強会「季節感染症について」 リモート伝達研修	認知症介護実践者研修 (1名)
11月	リモート勉強会「産業医による糖尿病の話」	介護労働者雇用管理責任者講習 (1名)
12月	リモート勉強会「新型コロナ感染症」	
1月	リモート勉強会「血圧について」 リモート伝達研修	認知症介護実践者研修 (1名)
2月	リモート勉強会「介護事故事例検討会」 リモート伝達研修	福祉人材確保支援セミナー (Web 講習) 中央ブロック介護職員勉強会 (1名)
3月	リモート勉強会「振り返り」 リモート伝達研修	

### 3. 小規模多機能型居宅介護わかくさ

#### 【サービス】

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々な我慢を強いられる年となった。感染予防対策を遵守するため、計画していた行事等もほぼ中止し、ご利用者が楽しみにしていた外出も行わず、施設内外のレクリエーションを抑制または削減する状況となった。また、感染予防対策の一つである密を防ぐための席の間隔を取ることで、会話の大きさも抑制され、耳の聞こえ辛いご利用者には、ご利用者同士の交流も難しい環境となり、日々のコミュニケーションにも不自由を感じた。年度当初より、利用者と職員の安全を確保するため、常に感染予防対策に努めてきたが、来年度はコロナ禍でも安全かつ充実した時間を過ごして頂ける新たな時代に即した取り組みを全職員で考え実施していきたい。

感染防止対策の為、センター内への立入制限により、毎月の居酒屋や運営推進会議を開催できず、地域との関係性が薄れる懸念もあるが、朝倉第二小学校の4年生と例年行っている交流は、ZOOMを利用しリモート交流を試みた。初めての取組であったが、全体的にご利用者も喜ばれ、小学校の先生からも継続されじっしできたことが、生徒たちも含め良い経験になったとの言葉を頂くことができた。

職員の研修参加は、外部研修の中止が多かったが、徐々にZOOM等のリモート講習も増え、職員の資質向上と利用者ニーズへ還元できるよう研修計画を考えたい。

#### 【運営】

コロナウイルスの影響もなく、全体的に安定していたと思われる。待機者のご家族や関係機関との密な連絡を行い、待機者も安定して確保出来ており、登録解除から新規登録までスムーズに行えた。ご利用者の入院については、医療機関等との密な連携を行い、退院後の在宅生活が安心して送れるよう、宿泊サービス等を活用し、可能な限り在宅生活を送れるサービス提供を計画している。また、利用者の健康管理は日々注視しており、1ヶ月を超える入院者は3月に1名のみであり、そのご利用者は入院中に悪化し再加療となったため期間延長となったが、退院後は、ご利用者の今後の生活と環境等に配慮し、引続きの利用することができた。今後は、長期入院後の生活等を考え、小規模多機能の必要性がより一層高まることが予測されるため、医療相談室や他事業所等の連携を密に行い、利用者生活とサービスの連携・継続を提供するよう努めたい。

【行事等（新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛）】

4月	誕生会	10月	誕生会
5月	運営推進会議（感染予防により中止） 誕生会	11月	運営推進会議（感染予防により中止） 誕生会
6月	防災訓練（自主訓練）	12月	クリスマス会（各事業所にて感染対策を行いながら催す）
7月	運営推進会議（感染予防により中止） 納涼祭（中止）	1月	運営推進会議（感染予防により中止） 誕生会
8月	誕生イベント（ハレタ）	2月	
9月	運営推進会議（感染予防により中止） 敬老会 防災訓練（自主訓練）	3月	運営推進会議（感染予防により中止）

【介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	6	6	61
要介護2	10	10	11	10	10	10	10	10	10	10	8	8	117
要介護3	8	8	9	10	10	10	10	10	10	8	8	7	108
要介護4	4	4	4	2	2	2	2	3	3	4	5	6	41
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
計	29	29	30	29	29	29	29	30	30	29	29	29	351
平均介護度	2.5 8	2.5 8	2.6 3	2.5 1	2.5 1	2.5 1	2.5 1	2.5 6	2.5 6	2.5 8	2.6 2	2.6 5	2.5 6

【機能別延利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	363	440	433	493	465	477	500	460	444	488	448	478	5489
訪問	934	949	879	950	983	936	949	906	993	937	771	739	10926
宿泊	88	122	108	107	114	115	123	112	107	120	97	103	1316
計	1385	1508	1420	1550	1562	1528	1572	1478	1544	1545	1316	1320	17731

【研修報告（内部・外部）】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	新規採用者研修 勉強会（感染症予防にて中止）	
5月	勉強会（感染症予防にて中止）	
6月	リモート勉強会「食中毒」	
7月	リモート勉強会「身体拘束・虐待」 リモート伝達研修	
8月	リモート勉強会「認知症について」 リモート伝達研修	認知症介護基礎研修（1名） 新型コロナウイルスリスクマネジメント 研修（Web 講座） 新任職員研修ステップ 1（1名）
9月	リモート勉強会「高齢者に多い疾患について」 リモート伝達研修勉強会	
10月	リモート勉強会「季節感染症について」 リモート伝達研修	認知症介護実践者研修（1名）
11月	リモート勉強会「産業医による糖尿病の話」	介護労働者雇用管理責任者講習（1名） 職場研修担当者養成研修（1名）
12月	リモート勉強会「新型コロナ感染症」	認知症介護実践者研修（1名）
1月	リモート勉強会「血压について」 リモート伝達研修	
2月	リモート勉強会「介護事故事例検討会」 リモート伝達研修	福祉人材確保支援セミナー（Web 講習） 中央ブロック介護職員勉強会（1名）
3月	リモート勉強会「振り返り」	

	リモート伝達研修	
--	----------	--

#### 4. くつろぎの家 訪問入浴サービス

##### 【サービス】

ご本人及びご家族の思いに寄り添う事が出来るよう職員間や各関係機関との連携を密に行い質の高いサービスが提供できるよう心掛け来年度にも繋げて行く。

##### 【運営】

令和2年度における新規利用者は16名で、問い合わせ及び新規依頼が70件あったが、空き枠がなく58件お断りし、他のサービスへの移行や他界・入院により14名の利用者が訪問入浴を中止。また、末期がんなどの終末期の方も多く利用開始後、短期間でご利用が終了されるケースも多く見られた。更に、利用者の高齢・重症化に伴い訪問入浴利用中に状態が悪化し入院。入院期間も不明だったが、直ぐに解除する事は出来ず約1ヶ月を目途に各関係機関に連絡し体調確認や退院の有無等の状況確認を行ったうえで利用中止となった。

今後、在宅医療を含め様々な症状の方の利用が増加してくる中で利用枠に限界はあるが空き枠等を上手に利用し少しでも多くの方に訪問入浴を利用してもらおう。

##### 【利用状況（障害含）】

	延べ人数	昨年同月対比	実人数	1日平均	稼動日数
4月	84	2	18	4.0	21
5月	80	-6	18	4.4	18
6月	100	16	19	4.5	22
7月	95	0	19	4.5	21
8月	90	3	18	4.5	20
9月	88	7	20	4.4	20
10月	91	6	19	4.1	22
11月	82	-2	19	4.3	19
12月	86	5	19	4.1	21
1月	79	6	19	4.2	19
2月	67	-1	18	3.7	18
3月	73	-1	19	3.2	23
合計	1015	35	225	4.2	244

#### 5. 高知市在宅介護支援センターあさくら（居宅介護支援事業所）

### 【資質向上】

令和 2 年度の計画に基づく目標に対しての質の向上の部分に関しては令和元年度末から本年度初旬にかけて新型コロナウイルスの感染拡大が流行し始め研修会・講習等の予定の中止が相次いだ為、質の向上の手段が少し減る事となった。事業所内での月に1回開催の居宅会・毎週開催の定例会・少人数での複数事業所との事例検討会をする事質の向上に繋がった。困難なケースでは職員間で連携を図り、情報共有し、各職員がマネジメント案を出し合い、ご利用者の状況・状態、ご利用者を支える介護者の身体的・精神的負担を軽減でき、在宅生活の継続を意識しながらケアプランニングをする事が出来ていた。

### 【地域】

新型コロナウイルス感染拡大の為、認知症カフェの開催が出来なかった。

### 【運営】

感染予防対策を図りながら、職員間の連携を密に行い、ご利用者やご家族等の感染状況把握に努め情報共有し、在宅生活を継続されているご利用者の個別性を重視し、柔軟に対応する事が出来た。

医療機関や行政、地域包括センター等とも連携を図り、情報の収集や困難ケースの受け入れに関してもスムーズに対応することができ、年度下旬にはセンター併設の”あさくら出張所”が”朝倉包括”へと変わり依頼のあった際には積極的に受け入れし、事業所内での伝達を密に行い、緊急時には24時間体制で連絡が取れる体制を構築することが出来た。ケース件数では5月から一人平均目標35件を維持していたが、9月末の職員退職によりケース件数が激減する事となった。下半期は3名体制にて稼働し平均件数35件程で稼働する。令和3年度も目標数が達成できるよう積極的な受け入れ態勢を整えていく。

### 【介護度別請求件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	45	49	52	50	49	50	38	39	38	42	41	38	531
要介護2	37	35	36	33	36	30	26	25	25	21	24	25	353
要介護3	21	25	26	26	24	26	21	19	18	17	16	17	256
要介護4	15	15	14	13	11	15	11	12	12	13	12	14	157
要介護5	2	2	2	3	3	2	3	2	3	3	3	3	31
計	120	126	130	125	123	123	99	97	96	96	96	97	1328
平均介護度	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1
予防・総合	35	29	34	32	35	33	24	25	25	21	21	21	335

合計	155	155	164	157	158	156	123	122	121	117	117	118	1663
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

### 【職員研修等】

	内部研修	外部研修
4月	新規採用者研修 勉強会（感染症予防にて中止）	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
5月	勉強会（感染症予防にて中止）	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
6月	リモート勉強会「食中毒」	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
7月	リモート勉強会「身体拘束・虐待」 リモート伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研 修（1名）
8月	リモート勉強会「認知症について」 リモート伝達研修	難病学習会 神経難病と嚥下障害（3名）
9月	リモート勉強会「高齢者に多い疾患につ いて」 リモート伝達研修勉強会	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研 修 （1名） 定期総会・講演（1名）
10月	リモート勉強会「季節感染症について」 リモート伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研 修 （1名） 西部地域カンファレンス（1名）
11月	リモート勉強会「産業医による糖尿病の話」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研 修 （1名） 西部地域医療カンファレンス（1名）
12月	リモート勉強会「新型コロナウイルス感染症」	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
1月	リモート勉強会「血圧について」 リモート伝達研修	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
2月	リモート勉強会「介護事故事例検討会」 リモート伝達研修	新型コロナウイルス感染症予防にて中止
3月	リモート勉強会「振り返り」 リモート伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研 修 （1名） 介護保険報酬改定説明会（2名）

## 6. 高知市朝倉地域包括支援センター

### （高知市西部地域高齢者支援センターあさくら出張所）

高知市の高齢者支援センター機能強化・再編方針により、「高知市西部地域高齢者支援センターあさくら出張所」を令和3年1月末日にて廃止、令和3年2月1日より「朝倉地域包括支援センター」として受託、職員4名（看護師1名、社会福祉士2名、主任

介護支援専門員 1 名) 体制で事業開始。

高知市の指示にて令和 2 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、個別訪問や地域活動の自粛期間が設けられ、中止となった会議や研修が多々あった。感染症予防対策を講じつつ個別訪問したり、会議や研修に参加する方法をオンラインとする等の工夫をし、地域活動や研修に可能な範囲で参加するよう努めた。

#### 【あさくら出張所業務について】

総合相談・支援機能の充実

関係機関や住民へ‘地域の身近な相談窓口’としての周知・啓発、関係作りを心がけ個別ケースへの対応を実施。地域住民からの相談への対応、各種申請代行、継続ケースのモニタリング・安否確認等、訪問を原則に実態把握し支援を行った。

令和 2 年 4 月～令和 3 年 1 月の相談支援述べ回数は 2,584 回、相談支援実人数は延べ 741 人。昨年度に比較し相談支援回数は増加、相談支援実人数は横ばい。相談支援回数の増加は、高知市のシステム変更に伴い相談支援内容の入力方法を再検討、細かに入力し実績報告するようになったことによるものと考ええる。

<地域ケア会議、外部の研修参加状況>

- ・地域ケア会議：7/20、9/14、11/9
- ・外部研修：8/4、9/23、10/9、11/6、12/1、1/14

令和 2 年度高知県地域包括ケアマネジメントリーダー養成研修

10/3、令和 2 年度ケアマネジメント基礎研修

10/22、行政・地域包括（高齢者）支援センター職員等研修

「養護者による高齢者虐待への対応」

11/27、権利擁護業務・高齢者虐待対応研修

#### 地域活動

コロナウイルス感染症蔓延のため、例年通りの地域活動が難しかった。限られた活動の中、開催されている地域の高齢者の集いの場に、感染予防対策を取りつつ参加。地域の方と情報交換、出張所の役割広報、機会を捉えた健康・介護予防の啓発活動を行い、住民主体の介護予防活動の取り組み支援を行った。また、休止中の活動に関しては、再開の動向確認・再開へ向けた世話人との検討を行い、必要時地域住民に情報提供するよう努めた。

地域共生社会の実現に向け、地域住民の支え合いを関係機関と協働し支援。地域コミュニティ会議の朝倉まちづくりの会や地域内連携協議会に参加するとともに、朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会を第二層協議体の活動としての取り組みと捉え、地域課題の把握方法を住民と共に検討。

認知症支援に関しては、認知症サポーター養成講座を主催 1 回、開催支援 3 回実施。認知症初期集中支援チーム員としての活動に備え、認知症初期集中支援事業研修参加後、

チーム員会議への参加を開始している。

#### 【朝倉包括支援センター業務について】

##### 総合相談・支援

出張所業務から引き続き、相談支援業務を実施。担当職員も増員となっており、相談機関としての機能強化に努めている。

2・3月の相談人数が94人・102人。出張所の際には、令和2年度で月平均74人であったのが、増加。西部地域高齢者支援センターの閉鎖により、朝倉包括支援センターへの相談が増えているものと思われる。

##### 権利擁護事業

虐待疑いの通報受理件数が、2・3月で4件。

通報受理後は基幹型包括支援センターに報告、相談しつつ規定の方法に従い対応。対応内容は、所定の権利擁護記録へ記載。

成年後見サポートセンター支援者会議等の研修に参加し、権利擁護支援のスキルアップに努めている。

##### 包括的、継続的ケアマネジメント

個別ケース支援を通じ介護支援専門員や医療機関との連携や協力体制強化に努めている。

##### 地域ケア会議

会議開催は令和3年度からのため、2・3月は4月からの会議準備を実施。

「見える事例検討会」のファシリテーター養成講座に2名参加、資格取得。

##### 介護予防ケアマネジメント事業

適切な事業が高齢者に提供できるよう地域の介護予防事業の把握に努めている。

直接的な介護予防ケアマネジメント事業の展開はないため、個別ケースを通じ介護予防の普及啓発に基幹型包括支援センターとともに対応。

##### 認知症高齢者支援、生活支援体制整備事業

認知症初期集中支援チームを設置。西部ブロックの毎月の会議に出席。事例提供がなく、訪問対応の実績報告があがっていない。

生活支援体制整備事業に関しては、出張所業務から引き続き、朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会を第二層協議体の活動としての取り組みと捉え、地域課題の把握～課題解決への取り組み方法を住民と共に検討している。

朝倉第二小学校区をモデル事業として地域共生カルテの作成に健康福祉総務課、高齢者支援課、地域防災推進課、地域コミュニティ推進課、高知市社会福祉協議会と共に取り組んだ。今後、取り組み内容・地域活動を展開する上で活用していきたいと考えている。

#### 7. 生活援助員派遣事業（シルバーハウジング若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な

相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

【活動内容・件数】

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事援助	緊急時の対応	関係機関との連絡	その他
28 件	1,351 件	10 件	7 件	13 件	149 件

【緊急通報】 ・ ・ ・ 誤作動 (1 件)

緊急対応 (6 件) 体調不良の為、救急車の要請をする。

緊急対応	2 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族より通報があり、体調不良の為、救急車を要請する事となる。</li> <li>・ 本人より通報があり、体調不良の為、救急車を要請する事となる。</li> </ul>
その他	4 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転倒し立ち上がれないと通報あり、ケガは無く様子を見る事となる。</li> <li>・ 転倒している人がいると通報あり、打撲していたが本人の希望により病院行かず様子を見る事となる。</li> <li>・ 生活サイクル通報あり、トイレ詰まりにより 12 時間使用出来なかった為。</li> <li>・ ヘルパーより転倒の通報あり、ケガは無く様子を見る事となる。</li> </ul>
誤作動	1 件	

### Ⅲ 児童福祉関連事業

総括

令和 2 年度は、定員 130 名に対し新入園児 17 名を迎え、131 名の園児を受け入れた。年度途中の入退園がある中、3 月末は 135 名が在籍し、28 名の卒園児を小学校に送り出した。

年度途中の入園希望は、0 歳児に集中し、保育士の配置が厳しく、受け入れできない状況が続いたが、11 月に 1 名保育士を補充することができ、0 歳児を受け入れることができた。園児数減は、転居等の理由により年度途中に 3 家庭 (園児 4 名) が転園した。

今年度は、新型コロナウイルス感染に始まり、4 月中旬から 5 月連休明けまで登園自粛協力での保育となった。

年間行事においても、感染予防対策を講じたうえで、内容や時期を見直し実施した。しかし、保育室内の保育参観を年 2 回計画していたが、密集の状態となるため、参観者の分散をはかるよう参観週間を設け参観者の人数制限をしたうえで保護者に保育の状況を公開した。

園の三大大行事である「夕涼み会」、「運動会」、「発表会」は、参観者への感染防止対策の徹底をお願いするとともに、参加人数を制限し実施した。保護者からは、コロナ禍において感染防止対策をとったうえでの行事開催に対して感謝の声が寄せられた。

地域との交流事業は、中止が相次ぎ園外での保育活動は行えなかった。

児童クラブは、新型コロナ感染拡大により、小学校は 3 月上旬から 5 月下旬まで臨時

休業となった。その間、一日開所して児童を預かり、子ども達の居場所づくりにつとめた。

令和3年度は、昨年度のコロナ禍での経験を活かし、園児の心身の健康と発育、安全な保育環境整備、保護者支援に職員一丸となって取り組みたい。

## [1] うららか保育園関連

### 活動報告

基本方針、保育目標、保育への心がまえを念頭に置き、それぞれの部署で役割分担を行った。毎日の朝ミーティング、月2回の報連相の会（職員会）、乳児・幼児部会を行う中で、連絡事項の周知や共通理解に努め保育に反映した。また、月1回給食部会を行い、献立や喫食について報告や検討を行い、給食内容の向上ならびに職員の食育の認識深めた。

苦情・事故報告は、随時検討会を開き、迅速に保護者に説明すると共に対策を講じた園児の育ちの支援については、身体測定、内科・歯科健診、誕生会、避難訓練、お点前（年長5歳児）、英語で遊ぼう（幼児組）、学研教室のまなびタイム（年長組）などを計画し実施した。その状況を、保護者に迎え時の会話や面談、連絡カードなどにより伝え、成長を共有した。

職員の資質向上のための研修は、コロナ禍で中止が相次いたが、オンライン研修のスタイルが主流となったため、システム環境を整備して参加し、職員個々のスキルアップをはかった。中でも、クラスの保育場を公開し、意見交換、討議を行う園内公開保育研修は、情報を共有・共感すると共に、個々の視点の違いから学びを深めることができた。

実習の受け入れは、保育実習生2名、県医師会看護専門学校の小児看護実習生26名を、健康観察、感染予防対策を綿密に行ったうえで受け入れ、後継者育成に貢献した。

保護者会活動は、例年通りの実施が困難な状況ではあったが、保護者の協力と理解により、感染防止を第一優先し、規模を縮小して可能な範囲で実施した。

### 園児入園状況と園児数 定員130名

月初在籍入所承	月年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	乳児	3	5	6	6	6	6	6	6	6	8	9	9
1・2歳児	42	42	42	42	42	42	41	41	41	41	42	42	42

諾 児 童 数	3 歳児	35	35	35	35	35	34	34	34	34	34	34	34
	4・5 歳児	51	51	51	50	49	49	49	49	49	49	49	49
	合計	131	133	134	133	132	130	130	130	132	134	134	135

### 保育日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
日数	25	22	26	25	25	24	27	23	25	23	22	26	293

土曜日も一日保育（7 時 30 分～19 時）。

保育実質の休日は、日曜・祝日、年末年始(12/30～1/3)。

### 体験学習・保育実習等受け入れ状況

学 校 名	月 日	人数
高知県医師会看護専門学校 小児看護実習生	5 月 12 日～7 月 3 日	26 名
高知福祉専門学校 保育実習	9 月 1 日～9 月 15 日	1 名
龍馬看護ふくし専門学校 教育（保育）実習	11 月 9 日～11 月 21 日	1 名
高知県立国際中学校 ボランティア体験	8 月 24 日	2 名

月 日	行 事 名
4 月 1 日 (水)	入園式・始園式
6 月 24 日 (水)	プール開き 神事
7 月 18 日 (土)	夕涼み会
7 月 31 日 (金)	年長 野外活動(仁淀川)
8 月 3 日 (月)～7 日 (金)	自由参観週間
10 月 10 日(土)	第 19 回運動会
11 月 13 日 (金)	秋の遠足
11 月 24 日 (火)	交通安全教室
12 月 11 日 (金)	お餅つき
12 月 24 日 (木)	クリスマス会
1 月 28 日(木)	マラソン集会
2 月 2 日(火)	節分集会
2 月 20 日(土)	第 19 回発表会
3 月 11 日(木)	交通安全教室
3 月 12 日(金)	お別れ遠足
3 月 26 日 (金)	修了式
3 月 27 日 (土)	第 19 回卒園式

毎月一誕生会、避難訓練、  
お点前（年長）、英語で遊ぼう（幼児組）、まなびタイム（年中・年長）  
5月、10月－内科健診  
6月、11月－歯科健診  
5月、12月－災害伝言ダイヤル 171 体験

## [2] 特別保育事業

### (1) 延長保育事業

保護者の就労時間に合わせて、18時30分から19時まで保育を実施し(利用料金月額2000円)、平均15名程度の利用があった。

### (2) 一時保育（クローバー）

保護者の断続的就労や通院、リフレッシュ等の理由により、就園していない乳幼児を保護者にかわり保育する事業は、令和2年度は職員数不足のため休止した。その中で、問い合わせや相談があり、職員を増員し令和3年度より再開する。

### (3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

お子さんとその保護者の方を対象に、遊び場の提供・子育て親子同士の交流・子育て情報の提供・子育て相談、育児講座等を開催している。

保育園内に開設しているため、新型コロナウイルス感染防止の観点から、密を避けるため利用を午前（9時30分～12時30分）午後（13時～15時）、各3名までに制限し受け入れた。

これまでは、子育て親子の交流の場として、調理や給食試食会等、飲食する活動を計画してきたが、感染のリスクから飲食は禁止とし、マスク着用、手指消毒、検温を実施し、感染防止に努めた。

新型コロナウイルス感染拡大による公共機関の休館等から、親子で外出する場所に制限が生じ来所される方もいた。特にイベント時は定員を超える希望があり、お断りすることもあった。逆に天候不良時は、来所者がゼロのこともあった。

広場の様子や予定は、ちらしや SNS（Face book、Instagram）により公開した。SNS のフォロワー数は、現時点で Face book106 人、Instagram72 人と口コミで認知度は広がりつつある。

今後も、SNS を活用し、「なかよし広場」でのイベントの告知や活動の様子を紹介し、子育て親子の交流・情報提供の場として事業の目的を果たすよう努める。

## 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開放日数	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243
参加延べ人数	39組	23組	91組	146組	116組	103組	105組	83組	124組	108組	122組	188組	1248組

## 活動内容

- ・毎月「なかよし通信」発行

利用者配布および公的機関、商業施設、病院等に掲示

- ・育児・発育・健康相談の実施

開催月	講座名
4・10月	助産師「育児相談」栄
5・12月	養士「離乳食教室」保
6・1月	健師「育児相談」
7月	歯科衛生士「は・は・はの
8月	話」消防士「救急法」
9月	セルフチェック
12月	ボディメンテナンス

- ・子育てセミナー実施（月1回）

開催月	講座名
4・5・6・10・月	エアーランド
	歯固めづくり
5・7月	スクラップブック
6・9・3月	リズムあそび
8・9月	アクセサリーづくり
8月	プチ運動会
10月	ハロウィン製作
10月	遠足「のいち動物園」
11月	しめ縄づくり
12月	

1月	心が育つ絵本講座
2月	ネームプレートづくり
2月	職業適性診断
3月	コサージュづくり

- ・ 毎月の行事・・・お楽しみ会・よちよちランド・身体測定(成長曲線の記録)
- ・ 保育園行事への参加・・・誕生会・避難訓練・夕涼み会・クイズマス会節分集会・ひなまつり集会

#### (4) 病児、病後児保育事業 (ラベンダー)

本年度は、新型コロナウイルス感染の世界的流行により、日常的に感染予防対策が徹底されると共に健康観察に細心の注意がはらわれたこともあって、病児保育利用は激減した。

これまで、夏季の手足口病や流行性角結膜炎、冬季のインフルエンザ、感染性胃腸炎による利用が主流であったが、主要な感染症罹患が皆無に等しい状態であった。利用減少の中で、主な利用疾患は、咽頭炎、上気道炎であった。コロナ禍により、37.5℃以上の発熱時および解熱後 24 時間以上経過するまでは登園は控えるよう高知市から通知があったことから、これまで登園できていた軽微な症状でも登園を控えなければならず、病後の経過観察のために利用するケースが増えた。

子どもの健康をサポートする中で、免疫力・抵抗力の乏しい子どもが病気に罹患した際、保護者が安心して就労できる拠点として信頼を築いていく。

#### 利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	22	14	15	27	18	22	22	18	18	17	24	18	235

#### (5) 体調不良児対応型病児保育事業 (スイトピー)

今年度は、保育中の発熱や嘔吐・下痢等による対応は例年よりも少なかったが、就労によりすぐの迎えが困難な保護者にとっては、看護師がその間個別で対応するため、安心につながっている。

活動中のケガによる受診の同行が今年度は 1 件あった。受診後の様子は、保護者に説明を行いその後の受診につなげた。

#### 利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	5	4	3	6	3	5	1	5	9	2	1	8	54

## [2] 放課後児童クラブ

月1回の定例会において、各クラブの様子や、気になる児のかかわり方などを報告・相談することで、指導方法の統一やクラブの運営方法について共通認識することができた。また、それぞれのクラブの取り組みを情報交換することにより、クラブ活動のマンネリ化をはかるように努めた。

新型コロナウイルス感染拡大による小学校臨時休業期間、児童クラブは一日開所した。その中で、児の安全、健康管理を目的に、感染防止対策、熱中症や怪我時の対応に関する講話、救急法講習を実施した。

### 春野西小学校放課後児童クラブ 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	23	21	20	21	23	20	21	20	19	22
在籍者数	34	34	33	34	34	33	31	30	29	29	29	28
出席延人数	323	299	648	663	434	537	585	536	528	461	482	504

### 春野東小学校放課後児童クラブ 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	23	21	20	21	23	20	21	20	19	22
在籍者数	55	52	49	49	48	44	44	42	42	42	41	41
出席延人数	563	530	1025	966	667	759	817	737	776	664	709	768

### 南ヶ丘第一放課後児童クラブ 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	23	21	20	21	23	20	21	20	19	22
在籍者数	37	36	36	36	36	35	33	33	33	31	31	30
出席延人数	362	318	678	611	506	556	567	547	568	482	477	503

### 南ヶ丘第二放課後児童クラブ 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	23	21	20	21	23	20	21	20	19	22
在籍者数	19	19	18	17	17	17	16	16	16	15	15	15
出席延人数	183	199	296	280	255	242	246	237	237	213	219	256

少子化に伴い学童数の減少から児童クラブ利用児も減少傾向にある。  
西小学校児童クラブには、特別支援の児童が利用しているため指導員を増員している。  
しかし、様々な特性を持つ子どもがいることから、クラブ利用児数の多い春野東小学校児童クラブの指導員も増員できるようになった。

子どもたちの放課後の居場所として、保護者が安心して就労できる環境として児童クラブの運営を担っていきたい。

### 「3」職員研修参加状況

月	研修名(内容)	主催者	参加職種	参加人数
6	キャリアアップ研修マネジメント 「保育の動向と課題」	高知県	保育士	1
5	保育者基礎研修Ⅰ期-I	高知県	保育士	1
7	保育者基礎研修Ⅰ期-II	高知県	保育士	1
7	キャリアアップ研修 「特別支援教育の視点に基づいた保育」	高知県	保育士	1
7	キャリアアップ研修 「乳児保育」	高知県	保育士	1
7	保育者基礎研修Ⅰ期-III	高知県	保育士	1
9	キャリアアップ研修 「医療的ケアが必要な子どもたちの支援・地域生活」	高知県	保育士	1
9	救命救急講習会 「『事故防止ガイドライン』に見る事故防止対策」	高知市	看護師	1
9	特別支援担当保育士研修 「特別支援を必要とする子どもへの対応」	高知市	保育士	1
9	「よちよちランド」スタッフ講習会	高知市	子育て支援	1

	「親子絵本ふれあい事業」		員	
10	保育技術専門講座Ⅳ 「保育環境の構成と遊びの展開」	高知県	保育士	1
10	子育て支援員フォローアップ研修及び現任研修	高知市	保育士	1
10	キャリアアップ研修 「保護者支援・子育て支援」	高知県	保育士	1
10	体調不良時対応型病児保育事業担当看護師研修会	高知市	看護師	1
10	給食部会	保育士会	栄養士	1
10	「児童虐待」研修会	高知県	保育士	2
10	保育所食育研修会	高知市	調理員	1
10	放課後児童クラブ 特別支援担当者会	高知市	支援員	1
10	教育・保育施設における感染症対策研修	高知市	看護師	1
10	食育研修（オンライン）	保育士会	栄養士	1
10	初任保育所長等（就任予定者）研修（オンライン）	厚生労働省	看護師	1
11	アレルギー対応研修	高知市	保育士	1
11	保育士部会 こどもとともに豊かな絵本の時間を	保育士会	保育士	1
11	キャリアアップ研修 マネジメント（オンライン）	高知県	保育士	1
11	保育者研修Ⅰ期 「発達の気になる子どもの見方」	高知県	保育士	1
11	発達障害児等支援スキルアップ研修（オンライン）	高知県	看護師	1
11	主任保育士研修（オンライン）	厚生労働省	保育士	1
12	キャリアアップ研修 「保護者支援・子育て支援」（オンライン）	高知県	保育士	1
12	南海トラフ地震から子どもたちも先生も守る勉強会 ～高知の保育者に本当に必要な”備え”とは～	保育士会	保育士 看護師	3 1
1	キャリアアップ研修 「障害児保育・特別支援教育」（オンライン）	高知県	保育士	1
1	保育者基礎研修Ⅰ期－Ⅳ	高知県	保育士	1
1	キャリアアップ研修 「乳児保育」	高知市	保育士	1
	子育て支援員フォローアップ研修	高知市	子育て支援	1

2			員	
2	保育園等におけるアレルギー疾患に対する普及啓発講習会 (オンライン)	厚生労働省	看護師	1
3	BCP 模擬訓練 保育所版	JDRS	保育士	2

## IV 公益事業

### [1] 介護福祉士養成施設 関連

#### 1 平成福祉専門学校

##### 総括

本年度の介護福祉士国家試験受験率は 97% (38 人中/37 人)、合格率は 75.7% (28 人合格) であった。厚生労働省の報告によると、全国の介護福祉士養成施設の合格率は 72.9%。介護福祉士国家試験 100%合格を目指し、模擬試験や Web を活用して特別講座を行ってきた。しかし、試験日が近づいても焦らない者、資格取得はしたいと言うが行動にうつさない者、学習を重ねても知識が身についていない者など複数人おり、その者達の不合格が目立つ結果となった。個々の学生の意欲が、合格につながると感じる。来年こそは、受験生全員合格を目指して取り組みたい。

学習面では、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りに進められなかった。状況に応じて、自宅にて課題に取り組んでもらったり、Web を活用した授業を実施。実習は、施設の指導者に来校してもらい実施したが、現場で体験を通じた学習の必要性を感じ、1年生は抗体検査を受けてから施設の方で第2段階実習に参加している。授業は密にならないようにできる限り間隔をとって注意しながら、グループワークや発表等も取り入れて、学生が主体的に参加する中で、課題解決力、自発的発言力を養える授業形態で行った。学生達を見ていると、言葉や表情、雰囲気などを含めたコミュニケーション能力や、考える力が身についていると感じる。引き続き学生が主体的に学習できるように、感染症に配慮しながらグループで行う活動や発表する場を作っていきたい。

全国的に介護福祉士養成校の入学者の減少は深刻な問題である。県外では外国人留学生の入学が多くなっていると聞いていたが、感染症の流行により入国できない状況にあると聞く。本校は全国と比較すると、学生数は多いと思われるが、年々減少傾向にある。少子

高齢化に伴う高校生数の減少が今後も加速されることから、学生募集はますます厳しくなると危惧する。今までと同様に、行政や関連機関との連携をより一層強固にし、介護の魅力を発信すると共に、介護福祉士養成校での学びの重要性を広めていきたい。

## ① 教務課

感染症の影響により、計画を変更することが多々あったが、授業調整はスムーズにできたと感じる。今後も、早めの授業計画の立案に努め、教員間、他部署との連携をとりながら急な変更が迫られた時にも対応ができる体制をとる。

学習指導面では、教科間の連携を図ると共に、感染症を意識しながら、学生が主体的に学習できるよう努めた。知識の習得に見られる個人差に対しては、個別指導も実施している。

国家試験への対策として、4月より時間割上に「国家試験対策」の時間を設定し、定期的に模擬試験（外部委託を含む）を実施した。また Web も活用しながら、専任教員による特別講座なども希望者のみ対象として実施した。

介護福祉実習関係では、「実習施設打合せ会」を通して、また必要に応じて実習指導者との情報の共有、連絡、調整に努めた。依頼する実習先は、学生数の減少や移動手段の確保、また地理的条件の問題から特定の施設に偏る傾向がある。

校友会活動は、現在、現実的に停止状態にある。卒業生と在校生との交流や各種イベントの協働開催などの実施に向けて、組織体制を見直す。なお、本校は、卒業生の来校が頻繁にある。卒業生が母校に来やすい環境を維持し、情報交換に努めたい。

## ② 学生課

生活指導においては、学生の特性を踏まえた個別指導を、教員間の情報共有を図り実施した。必要に応じて、家族を交え面談も行った。

交通マナーにおいて、事故はなく、苦情や報告もなかった。今後も交通マナー順守が習慣化できるよう指導を継続する必要がある。

校内清掃は、感染症に配慮して学年を隔てた縦割りグループを中止し、学年ごとで実施している。

学生の健康管理については、学校保健安全法に基づき健康診断等を実施した。また、介護福祉実習時の感染予防として、便検査、インフルエンザ予防接種を実施した。

学生自治会は、感染症の影響でほとんど計画できなかった。交通安全運動、点字図書寄贈など、地域に密着した活動は参加している。先輩から受け継いできた活動を今後も維持していきたい。

## 学生数

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年生	33	33	32	32	31	31	29	29	29	29	29	29
2年生	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38

## 卒業生就職先

種別	人数	種別	人数
介護老人福祉施設	19	社協	1
有料老人ホーム・ケアハウスなど	7	グループホーム	1
障害者関係施設	3	ヘルパー	1
デイ	3	県外（有料）	1
医療機関	2		
計		38	

## ③業務推進課

### 実践目標

- ・ 学生募集の成功
- ・ 体験入学参加者数の増加
- ・ 福祉教育及び説明会レベルの向上

学生募集としては、40名定員に対して23名の入学生を迎えた。（充足率58%）高校には、高知県内を中心に延べ165校訪問して、体験入学への参加周知や奨学金等の周知を行った。訪問時には、国家資格取得方法の改正や国家資格の移行期間における措置についてなどの広報活動に加えて、説明会や体験入学へ参加してくれた高校生の様子や質問のあった不安なことなど、個別に対応した内容についても報告を行った。

高知県専修学校各種学校連合会の説明会や説明会業者での説明会は、高知県内の高等学校や高知県内、愛媛県南部を含むホテル等で合計19回実施し、延べ58名の高校生に説明を行った。

福祉教育授業については、高知県内5校において述べ12回実施した。

今後、高校生の人口が減少する中、それに伴い介護福祉を希望する高校生が減少することが予想される現状において、福祉教育及び説明会で会った高校生一人ひとりを大切に、体験入学への誘導、進学へと繋がるようフォローを丁寧に行う。

また、外国人留学生の募集については、他校や他機関からの情報を得ながら人材確保できる体制を整える必要がある。

## ④総務

日々の会計入力を目標としたが、実行出来ていない日もあり、次年度には迅速な処理が出来るよう心掛ける。予算管理については、補正予算で誤りがあったため、予算と実績の収支差額が多くなった科目があったが、その他の経費については、年度内の必要なものを検討し、職員全員が意識をもって節約に取り組むことができた。

授業料については、令和2年度から修学支援新制度が導入にされ、授業料減免等が開始された。対象の学生については適切に対応した。

## 2. 介護実務者研修

令和2年度は昨年に比べて受講者が微増し、22名が受講して21名が研修を修了した。

## 3. 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

本年度も高知県より委託を受け、本事業を実施した。訪問型研修として春野高校・城山高校の2校と集合型研修として本校にて1校の計3校で実施する。計33名が受講し全員修了した。

また、この研修を通して本校への進学者は計5名である。介護分野への就職者は少なく進学希望者が増えた。介護の人材確保としての目的は果たしていると思われるが、集合型研修の受講生が減少傾向にあるので、今後は受講生の確保も必要である。